

「NEWSな済生人」
「自助」推進で
災害対策をアップデート

済生

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1141

7

July 2024



済生会の不易流行論

190

理事長 炭谷 茂
Shigeru Sumitani



高齢者対策の充実は、効果的な少子化対策である。両者を分離・対立として捉えるのではなく、高齢者対策が進むのは高齢者に

は、「少子化が進むのは高齢者に

最近政府は、全世代型社会保障制度を目指すと強調する。しかし、こんなことを強調している国は、世界の中でも珍しい。

第2次世界大戦後各国は、福祉国家の建設を目指した。イギリスでは「振りかごから墓場まで」をスローガンに掲げて社会保障制度の整備を進めた。社会保障制度は、全世代を対象にするのが当たり前の話である。ど

日本がわざわざ全世代型社会保障制度を掲げるのは、高齢者対策の予算を削り、児童対策に振り向ける口実であることが露骨に見えてしまう。

しかし、これを強調すること

は、少子化対策と高齢者対策は、矛盾対立するのだろうか。若い人が結婚を躊躇い、子どもを持たない理由として将来に対する不安を挙げる。高齢になつても医療、年金、介護などが保障されていれば、安心して家庭が持てる。

政府は、少子化対策に2026年度までに必要な年3兆円余の財源のうち1兆円程度を社会保障の削減から捻出するとしている。削減対象になるのは支出額が大きい医療、介護、生活保護になると思われるが、いずれも効率化による削減余地がなく、現行の給付水準を引き下げるしか道はない。すると、国民の生活不安は増大し、少子化を進行させるだけだ。

☆ ☆

高齢者対策の充実は、効果的な少子化対策である。両者を分離・対立として捉えるのではなく、高齢者対策が進むのは高齢者に

少子化対策と高齢者対策の融合

お金を使い過ぎるからだ」といたずらに世代間の対立をあおいでしまく。

若き経済学者は、「少子化対策のためには高齢者の集団自決が必要」という暴論を堂々と述べる。

少子化対策と高齢者対策は、断然しなければ認められないと指導を受けて、断念した。縦割り行政の典型であるが、現実の姿

50年前の日本の家庭は、3世代同居という大家族が多くた。育児、教育、介護などの機能を丸ごと果たしていた。現代ではこれに代わって地域が担う仕組みが必要になった。これを組織化するのは、住民団体、NPO、社会福祉法人、社協等の中間団体が適切である。高齢者対策と少子化対策と一緒に扱う道を探すこととは、我々が直面している問題の解である。

超える。予想を、常識を、限界を。



いつしょに、明日のこと。
Share the Future



7月のたよりが聞こえる ミニトマト

お弁当では彩りによく使われ、リコピンやビタミンCなどで栄養豊富、家庭菜園初心者にもおすすめの野菜であるミニトマト。ハウス栽培のおかげでスーパーでは1年中、国産のミニトマトを見ることができるが、旬は6月から11月である。

ミニトマトには赤はもちろん、オレンジや黄色、緑や紫、黒と様々な色がある。違いの種の違いや色素の違いは品種の度合い、光量・土質などの環境の違いの四つ。紫や黒のミニトマトがあると驚きだが、

（N）

ナスやジャガイモと同じナス科ナス属だと知ると納得な気もする。

また、ミニトマトを含むトマトには日焼け予防の効果があることも有名な話だ。トマトに含まれるリコピンやカロテノイド、ビタミンCには抗酸化作用があり、日焼けやシワの原因となる活性酸素を除去する働きをしてくれ、日焼けをしてしまった後の肌に付けてもメラニン色素を薄くしてくれる。実際にイギリスにあるニューカッスル大学の皮膚科学教授であるマーク・バーチ・マチン教授とマンチエスター大学の皮膚科医であるレスリー・ローズ教授の研究やカゴメ株式会社の研究で裏付けられている。

毎年最高気温が更新される暑い夏にミニトマトを食べて、紫外線対策はいかがでしょうか。

表紙のことば

夏の小さな宝物

表紙イラスト 久保田真由美 *Mayumi Kubota*

通年見かける身近な野菜ミニトマト。この季節、育てたミニトマトに実がなり色付く様子に目を細めている方もいらっしゃると思います。採れたての野菜として食べられるし、と以前プランターで育てたこ

とがありました。いくつもの実が緑橙赤と色付く様子があまりに可愛く、収穫できずに毎日ひたすら眺めていた経験があります。夏の太陽をいっぱいに浴びたミニトマトは、体にも心にも栄養たっぷりです。



済生 SAISEI

CONTENTS JULY, 2024

NEWSな済生人

自分を守り、利用者さんを守る。
「自助」推進で災害対策をアップデート
(千葉)ならしの訪問看護ステーション所長
済生会訪問看護ステーション部会会長

加藤晴子さん

済生会交差点

『医師の働き方改革』時間外労働の可視化で、医師の労働時間を削減／『見守り支援システム導入』利用者・家族の安全を確保し、職員の業務負担軽減も実現／『チャレンジを支える』熊本城マラソンを義足で完走！挑戦を掲げることで人生を変える

機関誌「済生」が連載 創刊100年！ 16

この人 鈴木雅之

30
口福にっぽん 吉井省一
32
だれでもかんたん てづくりおもちゃ いまいみさ
34

TOPICS

36
大雑報
78

題字協力：石飛博光
アートディレクション：OVO INTERNATIONAL

加藤 能登半島地震の直後、被災地域のスタッフに聞いたのですが、当日は利用者さんの訪問に行かなかつたそうですが、まずは自らの安全を確保してから、翌日以降に連絡をとつて必要な人には訪問したそうですね。

加藤 訪問看護師です。これまで「災害時ケアシート」というものを作成し、在宅酸素療法の利用者さん、ストーマ（人工肛門）を使用している利用者さんに半年に1回、誰がどんな機器を使用しているか、それぞれのメーカーや対応の注意点、連携医療機関などを係で調べて職員と利用者さんが共有しています。

高見 一人ひとり違う情報を定期的に更新して……かなり細かい作業ですよね。

加藤 職員全員で考えて、必要だと思ったものを用意しています。最近では災害時対応のフローチャートやアクションカードを作成しました。

高見 それはどうななものですか。

加藤 背の高い家具は固定する、ベッド周りに物を積み上げないなどの居室環境の整備、「地震の際は手近の座布団や毛布で頭を保護して戸棚などから離れる」といった災害時の対応・注意事項をまとめた「利用者災害対策チェックリスト」を渡して、自分たちで行なう災害対策についてお伝えしています。

高見 これも災害係の発案ですか？

加藤 そうです。備忘のため定期的に利用者さんに声をかけて確認しようとか、災害時に定期的に利用者さんに声をかけて確認しようとか、災害伝言ダイヤル（171）の使い方を指導しようとか、いろいろと案が出てやり始めています。

SAISEI | 2024 JULY 08

“災害係”が担う 施設と利用者の災害対策 細かな準備で安心をつくる



①ならしの訪問看護ステーションで働く職員 ②利用者さんとの信頼感や親近感を高めるために同ステーションWebサイトでは職員紹介ページを設けている ③～⑤訪問看護サービスでは日常のコミュニケーションの中で、災害時を想定した話をすることが重要

ケアマネとの連携で 実際の避難状況を想像

看護師さんが細かな情報を共有してくれるることはとてもありがたいです。

加藤 ケアマネさんは、利用者の自宅内の環境や災害時に気付けるべきポイントなどの情報を共有しています。利用者さんの災害対策の確認でも協力し合えるか

高見 ケアマネさんは、利用者の自宅を訪問するのは基本月1回ほど。最前線で利用者さんと接している訪問

高見 「自助」を中心とした災害対策を考へられるのがケアマネさんやヘルパーさん、訪問看護師である私たちのなかと思いません。今足りていない「自助」につなげる教育の役目を担っているのではないでしょうか。

高見 「自助」なんだからあなたたちでやつてくださいね。私は知りませんよ」というふうではないですね。情報提供や教育を通して利用者さんやご家族の防災への意識は変わってきたよう思いますか。

【取材を終えて】

加藤さんは「災害対策が机上の空論ではなく、私たちの身に近い現実」と語りました。利用者さんにも災害を「想像してもらう」ことは私たちケアマネジャーにとっても重要なことです。

「利用者と職員のいのちを守る」という加藤さんの本気の思いが伝わり、災害対策について支援者同士の連携のあり方も考える機会となりました。

（高見友郁）

か伝わっていな
いなど思うこと
も。

高見 「自助」を
しっかりと理解
して備えている
方はどれくらい
いますか。

加藤 3割ぐら
いでしまうか。
まったく備えを
していなかつた
り、居室内に荷
物が積み上がっ
ていたりする人
もまだまだいま
す。

高見 ケアマネ

が自宅を訪問す
るのは基本月1
回ほど。最前線
で利用者さんと
接している訪問

高見 「自助」
なんだからあなたたちでや
つてくださいね。私は知りませんよ」とい
うわけではないですね。情報提供や教育を
通して利用者さんやご家族の防災への意識
は変わってきたよう思いました。

か伝わっていな
いなど思うこと
も。

高見 「自助」を
しっかりと理解
して備えている
方はどれくらい
いますか。

加藤 3割ぐら
いでしまうか。
まったく備えを
していなかつた
り、居室内に荷
物が積み上がっ
ていたりする人
もまだまだいま
す。

高見 ケアマネ

が自宅を訪問す
るのは基本月1
回ほど。最前線
で利用者さんと
接している訪問

高見 「自助」
なんだからあなたたちでや
つてくださいね。私は知りませんよ」とい
うわけではないですね。情報提供や教育を
通して利用者さんやご家族の防災への意識
は変わってきたよう思いました。

ツールを作ろう
という声が上が
つたんです。

高見 「災害係」
がいるのですね。

加藤 3割ぐら
いでしまうか。
まったく備えを
していなかつた
り、居室内に荷
物が積み上がっ
ていたりする人
もまだまだいま
す。

高見 ケアマネ
が自宅を訪問す
るのは基本月1
回ほど。最前線
で利用者さんと
接している訪問

高見 「自助」
なんだからあなたたちでや
つてくださいね。私は知りませんよ」とい
うわけではないですね。情報提供や教育を
通して利用者さんやご家族の防災への意識
は変わってきたよう思いました。

ツールを作ろう
という声が上が
つたんです。

高見 「災害係」
がいるのですね。

加藤 3割ぐら
いでしまうか。
まったく備えを
していなかつた
り、居室内に荷
物が積み上がっ
ていたりする人
もまだまだいま
す。

高見 ケアマネ
が自宅を訪問す
るのは基本月1
回ほど。最前線
で利用者さんと
接している訪問

高見 「自助」
なんだからあなたたちでや
つてくださいね。私は知りませんよ」とい
うわけではないですね。情報提供や教育を
通して利用者さんやご家族の防災への意識
は変わってきたよう思いました。

ツールを作ろう
という声が上が
つたんです。

高見 「災害係」
がいるのですね。

加藤 3割ぐら
いでしまうか。
まったく備えを
していなかつた
り、居室内に荷
物が積み上がっ
ていたりする人
もまだまだいま
す。

高見 ケアマネ
が自宅を訪問す
るのは基本月1
回ほど。最前線
で利用者さんと
接している訪問

高見 「自助」
なんだからあなたたちでや
つてくださいね。私は知りませんよ」とい
うではないですね。情報提供や教育を
通して利用者さんやご家族の防災への意識
は変わってきたよう思いました。

ツールを作ろう
という声が上が
つたんです。

高見 「災害係」
がいるのですね。

加藤 3割ぐら
いでしまうか。
まったく備えを
していなかつた
り、居室内に荷
物が積み上がっ
ていたりする人
もまだまだいま
す。

高見 ケアマネ
が自宅を訪問す
るのは基本月1
回ほど。最前線
で利用者さんと
接している訪問

高見 「自助」
なんだからあなたたちでや
つてくださいね。私は知りませんよ」とい
うではないですね。情報提供や教育を
通して利用者さんやご家族の防災への意識
は変わってきたよう思いました。

ツールを作ろう
という声が上が
つたんです。

高見 「災害係」
がいるのですね。

加藤 3割ぐら
いでしまうか。
まったく備えを
していなかつた
り、居室内に荷
物が積み上がっ
ていたりする人
もまだまだいま
す。

高見 ケアマネ
が自宅を訪問す
るのは基本月1
回ほど。最前線
で利用者さんと
接している訪問

高見 「自助」
なんだからあなたたちでや
つてくださいね。私は知りませんよ」とい
うではないですね。情報提供や教育を
通して利用者さんやご家族の防災への意識
は変わってきたよう思いました。

ツールを作ろう
という声が上が
つたんです。

高見 「災害係」
がいるのですね。

加藤 3割ぐら
いでしまうか。
まったく備えを
していなかつた
り、居室内に荷
物が積み上がっ
ていたりする人
もまだまだいま
す。

高見 ケアマネ
が自宅を訪問す
るのは基本月1
回ほど。最前線
で利用者さんと
接している訪問

高見 「自助」
なんだからあなたたちでや
つてくださいね。私は知りませんよ」とい
うではないですね。情報提供や教育を
通して利用者さんやご家族の防災への意識
は変わってきたよう思いました。

ツールを作ろう
という声が上が
つたんです。

高見 「災害係」
がいるのですね。

加藤 3割ぐら
いでしまうか。
まったく備えを
していなかつた
り、居室内に荷
物が積み上がっ
ていたりする人
もまだまだいま
す。

高見 ケアマネ
が自宅を訪問す
るのは基本月1
回ほど。最前線
で利用者さんと
接している訪問

ツールを作ろう
という声が上が
つたんです。

高見 「災害係」
がいるのですね。

加藤 3割ぐら
いでしまうか。
まったく備えを
していなかつた
り、居室内に荷
物が積み上がっ
ていたりする人
もまだまだいま
す。

高見 ケアマネ
が自宅を訪問す
るのは基本月1
回ほど。最前線
で利用者さんと
接している訪問

ツールを作ろう
という声が上が
つたんです。

高見 「災害係」
がいるのですね。

加藤 3割ぐら
いでしまうか。
まったく備えを
していなかつた
り、居室内に荷
物が積み上がっ
ていたりする人
もまだまだいま
す。

高見 ケアマネ
が自宅を訪問す
るのは基本月1
回ほど。最前線
で利用者さんと
接している訪問

ツールを作ろう
という声が上が
つたんです。

高見 「災害係」
がいるのですね。

加藤 3割ぐら
いでしまうか。
まったく備えを
していなかつた
り、居室内に荷
物が積み上がっ
ていたりする人
もまだまだいま
す。

高見 ケアマネ
が自宅を訪問す
るのは基本月1
回ほど。最前線
で利用者さんと
接している訪問

ツールを作ろう
という声が上が
つたんです。

高見 「災害係」
がいるのですね。

加藤 3割ぐら
いでしまうか。
まったく備えを
していなかつた
り、居室内に荷
物が積み上がっ
ていたりする人
もまだまだいま
す。

高見 ケアマネ
が自宅を訪問す
るのは基本月1
回ほど。最前線
で利用者さんと
接している訪問

ツールを作ろう
という声が上が
つたんです。

高見 「災害係」
がいるのですね。

加藤 3割ぐら
いでしまうか。
まったく備えを
していなかつた
り、居室内に荷
物が積み上がっ
ていたりする人
もまだまだいま
す。

高見 ケアマネ
が自宅を訪問す
るのは基本月1
回ほど。最前線
で利用者さんと
接している訪問

ツールを作ろう
という声が上が
つたんです。

高見 「災害係」
がいるのですね。

加藤 3割ぐら
いでしまうか。
まったく備えを
していなかつた
り、居室内に荷
物が積み上がっ
ていたりする人
もまだまだいま
す。

高見 ケアマネ
が自宅を訪問す
るのは基本月1
回ほど。最前線
で利用者さんと
接している訪問

ツールを作ろう
という声が上が
つたんです。

高見 「災害係」
がいるのですね。

加藤 3割ぐら
いでしまうか。
まったく備えを
していなかつた
り、居室内に荷
物が積み上がっ
ていたりする人
もまだまだいま
す。

高見 ケアマネ
が自宅を訪問す
るのは基本月1
回ほど。最前線
で利用者さんと
接している訪問

ツールを作ろう
という声が上が
つたんです。

高見 「災害係」
がいるのですね。

加藤 3割ぐら
いでしまうか。
まったく備えを
していなかつた
り、居室内に荷
物が積み上がっ
ていたりする人
もまだまだいま
す。

高見 ケアマネ
が自宅を訪問す
るのは基本月1
回ほど。最前線
で利用者さんと
接している訪問

ツールを作ろう
という声が上が
つたんです。

高見 「災害係」
がいるのですね。

加藤 3割ぐら
いでしまうか。
まったく備えを
していなかつた
り、居室内に荷
物が積み上がっ
ていたりする人
もまだまだいま
す。

高見 ケアマネ
が自宅を訪問す
るのは基本月1
回ほど。最前線
で利用者さんと
接している訪問

ツールを作ろう
という声が上が
つたんです。

高見 「災害係」
がいるのですね。

加藤 3割ぐら
いでしまうか。
まったく備えを
していなかつた
り、居室内に荷
物が積み上がっ
ていたりする人
もまだまだいま
す。

高見 ケアマネ
が自宅を訪問す
るのは基本月1
回ほど。最前線
で利用者さんと
接している訪問

ツールを作ろう
という声が上が
つたんです。

高見 「災害係」
がいるのですね。

加藤 3割ぐら
いでしまうか。
まったく備えを
していなかつた
り、居室内に荷
物が積み上がっ
ていたりする人
もまだまだいま
す。

高見 ケアマネ
が自宅を訪問す
るのは基本月1
回ほど。最前線
で利用者さんと
接している訪問

医師の労働時間を削減

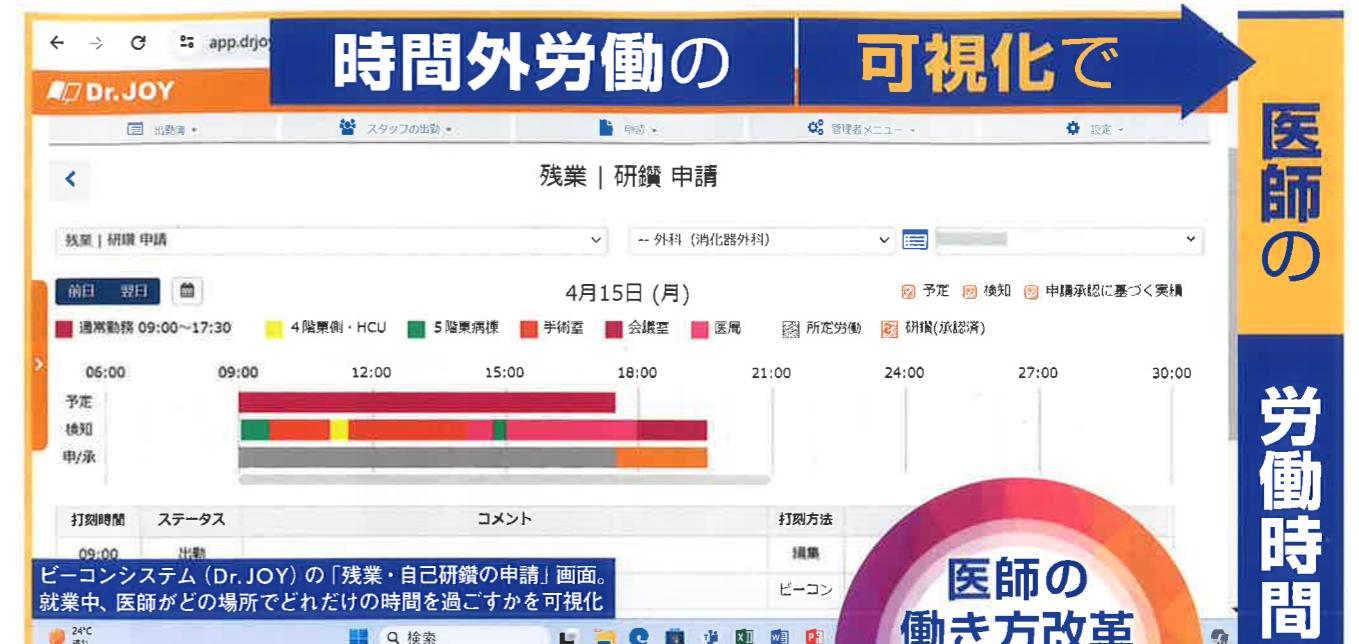
可視化で

時間外労働の

当院が位置する筑紫医療圏には3次救急医療機関が

なく、当院を含む3つの地域医療支援病院が主となり地域の救急医療を担っています。救急車搬入件数は年々増加しており、令和元年度に3500台程度だった年間件数は、令和5年度には約4700台と急激に増加。今後の高齢者人口の割合上昇も踏まえ、救急医療ニーズがさらに高まるものと思われます。

そのような状況で「医師の働き方改革」にどう対応していくか、当院では令和4年5月から



医師の働き方改革

〈福岡〉二日市病院

済生記者
久富大史



週1回の4役会議で各医師の法定外労働時間を確認している



医師自身が勤務状況を確認。必要に応じて自ら残業の申請を行なう

関係部署が月1回集まり、検討を重ねてきました。一番の課題は、時間外労働の時間制限や連続勤務時間の制限、勤務間のインターバルが示されたことで、医師がこれまで通りに働くことが難しい状況となることでした。特に夜間救急は内科系、外科系、循環器内科の3本柱で行なっており、夜間救急の約4割を外部からの応援（非常勤医）に頼っているため、今まで通りに勤務できなくなる状況は地域の救急医療の崩壊につながります。そ

宿日直許可取得のため、当番日以外の当直医師の勤務実態を把握する必要があります。そこで導入されたのが「ビーコンシステム（Dr.JOY）」。医師が小型の発信機を身につけ、外来、救急外来、医局、宿直室などに設置した受信機で検知する

受信機が労働を検知

業務の効率化とメリハリづくりに成功



SAISEIKAI JUNCTION

済生会にはたくさんの道があります。
道はどこかの交差点で交わり、離れていきます。
そして経路は異なっても目的地はみんな同じ。
「笑顔」です。



ことにより、どこにどのくらいの時間滞在しているかを可視化できるというものです。

導入にあたり、医局内は自己研鑽を行なう医師や電子カルテで業務を行なう医師が混在していたため、医局内の電子カルテ端末を撤去し、新たにカルテ室を設置。基本的には医局内は休息や自己研鑽の時間での使用とし、電子カルテの入力等の業務はカルテ室で行なってもらうよう周知しました。また、時間外労働の申請は医師の自己申告となっているため、医局にいたと

しても業務を行なつていれば時間外労働として申請できます。

このようにビーコンシステム

によって可視化された情報を元

に、医師自身が労働か自己研鑽・休憩時間かの判断を行ない、各医師の勤務状況が目に見えて分かるようになりました。

それに伴い、状況に応じて各

診療科の部長が早めの帰宅を促し、医師自身に「時間外労働を

している」認識を持つてもらう

など、意識改革も行ないました。

それでもなお時間外労働が多い医師に対しては、ヒアリングを行なつたり各科で対策を促したりして対応しました。

それに伴い、状況に応じて各

診療科の部長が早めの帰宅を促

し、医師自身に「時間外労働を

している」認識を持つてもらう

など、意識改革も行ないました。

医師に対しても、ヒアリングを行なつたり各科で対策を促したりして対応しました。

それに伴い、状況に応じて各

診療科の部長が早めの帰宅を促

し、医師自身に「時間外労働を

している」認識を持つてもらう

など、意識改革も行ないました。

医師に対しても、ヒアリングを行なつたり各科で対策を促したりして対応しました。

それでもなお時間外労働が多い医師に対しては、ヒアリングを行なつたり各科で対策を促したりして対応しました。

それでもなお時間外労働が多い

利用者・家族の安全を確保し 職員の業務負担軽減も実現

見守り支援 システム導入

〈鳥取〉老健はまかぜ

済生記者

松本 大

眠りスキャンでは各入居者さんの呼吸数や心拍数、睡眠状態、離床動作などをリアルタイムに画面に表示し、一目で把握できる

が同時に鳴ることが多く、優先度をつけて対応するものの、センサー コールを続けてコールされたり、優先度が低い人でも転倒があったりと、その対応の判断に困っていました。

みで対応が終わることも。離床していてもどんな状況かが確認でき、緊急対応の必要性の可否や優先度について、より的確な判断ができるようになりました。

また、眠りスキャンで“状態”が細かく確認できる利点を生かし、これまで“定時”に行なっていた睡前薬の内服確認を、入所者さんが“覚醒状態”になつ

てまだ日が浅く、現状では基本的な操作での活用にとどまっています。導入業者による操作説明会を定期的に実施し、操作性、機能性などが職員に浸透するよう努めています。

デジタル機器・システムを
活用して業務改善

今回導入した見守り支援システムは、入所者さんやご家族に安心・安全を提供することがで
き、職員にとつても業務負担軽減につながるもので。



離れた場所の職員と話す際に以前は大きな声を出していたが、インカムを使用することで解消

介護事業の置かれた
環境や情勢等を考慮し
ながら地域ニーズを把
握し、安心して利用で
きる施設づくりとともに、看護・
介護職の離職防止策として職員

筆者

して「見守りカメラ」（アイホン社）と「眠りSCAN」（パラマウントベッド社）を導入しました。4月からは介護システムと連携して本稼働しています。

見守りカメラは、入所者さんの映像を遠隔のパソコン端末や携帯端末で確認できるほか、設定した状態の変化を検知した際に通知と併せて映像を表示させることができるシステムです。

施設内の全床（50床）に導入した眠りSCANは、シート状のセンサーをマットレスの下に敷き込むだけで、ベッドを利用

今回の見守り支援システム導入に至りました。同期に県の担当者と補助金申請を進め「地域医療介護総合確保基金」で2290万円の補助金を受けることができました。

睡眠状態、覚醒、起き上がり、離床動作などを遠隔でリアルタイムに把握できるセンサーシステムです。

見守り支援システム導入のきっかけは、施設内で感染症が流行した際に居室内の状況を把握するためにカメラを設置したいという要望があつたこと。当初はペット用のカメラを設置し、タブレットと連携させて対応していました。

その後、職員からナースコールと連動して居室内の映像が閲覧できるものを使用したいとの声があり、職員で協議し各メーカーの商品を比較検討



見守り支援システム導入について職員で協議



睡眠を妨げないケアなど
サービス向上につなげる
システムを導入する前は、
認証

知症の人や歩行が不安定な人は、早めに対応できるようセンサーセンサーとナースコールを使用していました。しかし、



訪問先でもタブレットで介護記録システムにつなげ、データや画像を交えて家族へ説明できるように

化など、院内の体制を整えることが重要です。さらに、地域の

医療機関との連携はもちろんのこと、救急車の適正利用など地

域行政や地域住民も含め社会全体の課題として取り組むことも

不可欠だと思います。

チャレンジを
支える
熊本病院
済生記者
金子美雪

熊本城マラソンを義足で完走! 挑戦を掲げることで 人生を変える



筆者

斑病とは感染症等をきっかけに全身に血栓ができ、手足など体の先端から壊死していく難病です。主治医の救急科・川野雄一朗医師を中心治療を担当し、横田さんは一命を取り留めましたが両手の指・両足の膝から下を失いました。

当たり前のことが突然当たり前ではなくなってしまった現実に、当初、横田さんは悲観的な言葉が出ることも。しか

(現状は困難でも) 横田さんは長期的に叶えたいことを見据えながら、短期的な希望を一つひとつクリアしていくことを目標に自助具を作成し、リハビリを実施。リハビリ中も自信や成功体験が得られるように前向きな声を続けました。

横田さん自身も毎日懸命にリハビリに取り組み、通常では半年かかるところ2カ月で歩けるようになりました。

スタッフは傾聴を重ね、車の運転がしたい、仕事に復帰したい――。家族で旅行に行きたい、娘の卒業式に参加したい、

望を口にするようになりま

した。洗顔・洗髪が

きるようになりたい、歩

きたい、文字を書きたい、

車の運転がしたい、仕事に復帰したい――。

家族で旅行に行きたい、

娘の卒業式に参加したい、

車の運転がしたい、仕事に復帰したい――。

<p



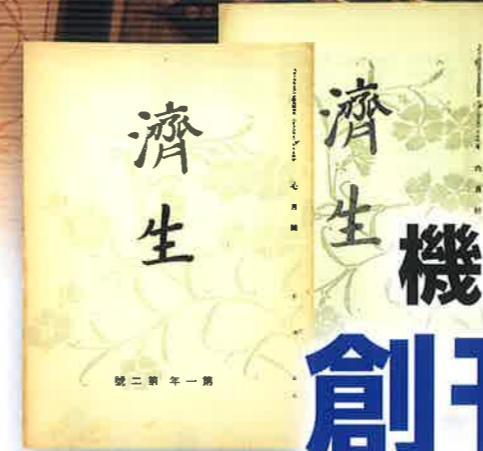
機関誌「済生」が創刊100年!



7月号・巡回看護班（前から二列目・右から5人目が賀川氏）



1924(大正13)年ころの赤羽乳児院（中央病院提供）



厚労省の人口動態統計によると、2022年の生後一年未満の「乳児死亡数」は1356人。

出生1000人に対し1.8人で世界最低レベルです。

100年前はどうだったのでしょうか――。

「済生」創刊号と第2号（1924年7月号）の記事をもとに紹介します。

（本部広報課 河内淳史）

日本では最近、乳幼児保護について議論研究され始めたが、一般の人はまだ理解していない。人類社会の大問題であるから、全国民が乳児のために奮闘努力すべき」と語ったのは1924（大正13）年6月に発行した「済生」創刊号に寄稿した医学博士の豊福環・初代赤羽乳児院院長（後の中央病院附属乳児院）です。

「日本は乳児100人のうち17人が一歳未満で死亡している。一日も早く北欧のようになる必要がある。そして、乳児だけではなく『母性保護も必要』」と豊福氏は言及しています。

人工栄養と人乳栄養を比較すると前者の死亡率は後者の5倍

豊福氏は一定区域内の家庭を訪問する「育児方法と衛生を教える済生会の巡回看護班はよく成績を挙げるものだ」「北欧で乳児死亡が減退したのは訪問看護によるもの」と語っています。

巡回看護班・10班を編成

巡回看護班の活動内容

- ①患者の処置
- ②妊産婦の保護
- ③乳児の保護
- ④老衰者の処置
- ⑤衛生指導

巡回看護班は簡易な家屋（パラック）を建て、そこを支援と自らの生活の拠点として活動しました。

巡回看護班の編成は医師1、助産師2、看護師3の6人1チーム。全部で10班が助産器械と応急医療材料を携帯して、旧東京市内（地図参照）貧困家庭を個別に訪問していました。活動内容は①患者の処置②妊産婦の保護③乳児の保護④老衰者の処置⑤衛生指導です（表参照）。



巡回看護班の活動内容	
①患者の処置	診療所等と連絡を取り合い患者を診療するか診療所等に案内して診察を受けさせる。外来受診できない患者には往診を手配。家族には看護法を指導または班員が交代で看護することもある
②妊産婦の保護	助産師は妊婦宅を訪問して衛生法を指導する。出産日が近いたら産院に送る。自宅出産を望むも経済的に開業助産師を呼べない場合は、巡回看護班の助産師が担当、出産後も衛生法等を指導する
③乳児の保護	乳児の栄養摂取が十分でない場合は親を指導、必要に応じて乳児院や病院に送る世話をする
④老衰者の処置	身寄りのない高齢者宅を訪問、必要に応じて市の療育院に照会して収容を依頼する
⑤衛生指導	受け持ち家庭の家族に衛生知識を与え、感染症予防の知識を普及させる

乳幼児と母性の保護の重要性を啓く



豊福環氏（中央病院提供）

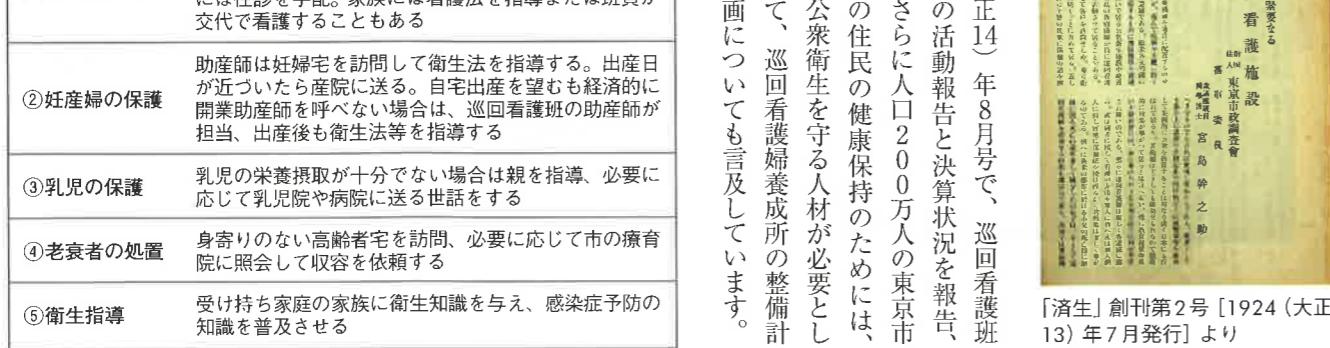
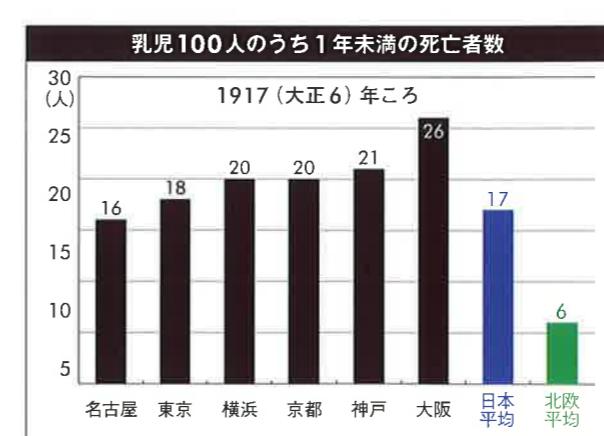
「日本では最近、乳幼児保護について議論研究され始めたが、一般の人はまだ理解していない。人類社会の大問題であるから、全国民が乳児のために奮闘努力すべき」と語ったのは1924（大正13）年6月に発行した「済生」創刊号に寄稿した医学博士の豊福環・初代赤羽乳児院院長（後の中央病院附属乳児院）です。

「日本は乳児100人のうち17人が一歳未満で死亡している。一日も早く北欧のようになる必要がある。そして、乳児だけではなく『母性保護も必要』」と豊福氏は言及しています。

巡回看護班・10班を編成

以上。栄養不足が原因で伝染病や肺炎を起こし死亡しているといいます。当時は現代とは異なる事情があるが、豊福氏は母乳を与えるべきと訴えています。

母親への教育も重要で「まず学校教育、そして新聞・雑誌・展覧会などあらゆる機会で育児の教育を」と語っています。母子健康手帳の前身、妊産婦手帳は1942（昭和17）年から開始されました。この記事から約20年後のことです。



日本財団助成事業完了のお知らせ

この度、令和5年度のボートレースの交付金による日本財団の助成金を受けて、下記の事業を完了いたしました。

記

事業名 令和5年度 検診機器の整備事業

助成金額 3,245万円

事業の内容

[支部名]	[病院名]	[機器名]
三重県済生会	明和病院	生化学自動分析装置
滋賀県済生会	滋賀県病院	X線TV装置
山口県済生会	豊浦病院	全自動尿分析装置

完了年月日 令和5年12月18日



明和病院



滋賀県病院



豊浦病院

information

一般社団法人 日本損害保険協会補助事業完了のお知らせ

この度、令和5年度の日本損害保険協会の寄付金を受けて、下記の事業を完了いたしました。

記

事業名 令和5年度 救急医療機器整備

寄付金額 1億44万円

事業の内容

[支部]	[病院]	[機器]
群馬県済生会	前橋病院	生化学自動分析装置
千葉県済生会	習志野病院	X線撮影装置
東京都済生会	中央病院	超音波診断装置
大阪府済生会	泉尾病院	患者監視装置
奈良県済生会	中和病院	磁気共鳴断層撮影装置
愛媛県済生会	今治病院	超音波診断装置

完了年月日 令和5年12月21日



前橋病院



中和病院



①県内外から120人が出席。質疑応答では積極的に発言する参加者も
②シンポジウムが開かれた会場は2016年伊勢志摩サミットに合わせて
③源平合戦の地「屋島」から望む高松市街地 ④JR高松駅に隣接する「か
がわ国際会議場」。右の高松シンボルタワーでシンポジウムが開かれた



「誰になら話せるか、子どもにより異なる。医師・保健師・MSWなどが担う役割は大きい」と話す宮本氏

「子どもたちがSOSを出せるフレット等での周知を引き続き行ない、早期発見・支援につなげる」と解説しました。

香川スクールソーシャルワーカー協会・岡本久仁代会長は「子どもたちがSOSを出せるようスクールソーシャルワーカーが信頼される存在になる」と言及しました。

千斗枝グローバル教育研究所・山中千枝子代表は「子どもの変化を見逃さないためにも、地域とのコミュニケーション、孤

の問題を知ることが大切。自分自身に何ができるか、考えるきっかけになつたのであれば幸いです」と挨拶して閉会しました。

参加者アンケートでは「シンポジストそれぞれの立場からの意見が興味深かつた」「改めて問題の深刻さを認識した」など

交わされました。
香川県子ども女性相談センター・藤原誠次長は「子どもを支援する機関が連携し、関係者が自分ごととして捉えることが重

要」と語りました。

高松市健康福祉局こども女性相談課・藤澤晴代課長は「市が取り組んできた実態調査・研修やホームページ・SNS・リ

ディスカッションでは①ヤングケアラーを見つける課題②支援のための工夫・留意点③ヤングケアラーを生まない社会にして議論しました。

最後に若林久男・香川県済生会病院院長が「ヤングケアラ

立させないための居場所をつくることが必要」と訴えました。

第13回 済生会生活困窮者問題シンポジウム

報告 生活困窮者問題シンポジウム ヤングケアラー問題を考える 新たなヤングケアラーを生まないための予防策

香川県済生会病院 済生記者 西山汐里

ヤングケアラー問題を考える
新たなヤングケアラーを生まないための予防策

基調講演では島根大学法文学部法経学科・宮本恭子教授が「ヤングケアラーを生まない社会に向けて―予防的ヤングケアラ―支援の重要性」と題し、ヤングケアラーは社会の構造変化のもとで生み出され、「周囲の大人がヤングケアラーに気付く必要があります」。

開会挨拶で炭谷茂・済生会理事長は「済生会は社会的に困難を抱えている人に対する支援を行なっている」と述べました。大西秀人・高松市長は「関係機関と連携してヤングケアラーの

社会的認知度の把握と支援につなげる体制づくりに取り組んでいます」と話しました。

基調講演では島根大学法文学部法経学科・宮本恭子教授が「ヤングケアラーを生まない社会に向けて―予防的ヤングケアラ―支援の重要性」と題し、ヤングケアラーは社会の構造変化のもとで生み出され、「周囲の大人がヤングケアラーに気付く必要があります」。

シンポジウムでは香川県済生会・一井眞比古支部長がコーディネーターを務め、宮本教授とシンポジスト4人による議論が

立させないための居場所をつくることが重要。子どもたちが話しやすい機会・場所をつくることが大切」と訴えました。

最後に若林久男・香川県済生会病院院長が「ヤングケアラ

一井支部長

宮本氏

家事や家族の介護など本来は福社関係者ら約120人が参加しました。

ヤングケアラー問題を考える新たなヤングケアラーを生まないための予防策

イオン水戸内原で公開講座 講演や健康相談に900人以上

〈茨城〉水戸済生会総合病院



6月2日、イオンモール水戸内原1階メインコートで

「健診を受けて防ごう慢性腎臓病(CKD)」をテーマに市民公開講座と腎臓病予防啓発イベントを開催しました。本講座は

水戸市・茨城県央腎臓病地域連携協議会との共催で、今回が8回目です。当日は大場正二・茨城県医師会副会長が総合司会を務め、延べ900人以上が来場。慢性

病(CKD)をテーマに市民公開講座と腎臓病予防啓発イベントを開催しました。本講座は

水戸市・茨城県央腎臓病地域連



無印良品「まちの保健室」と「コラボアットホームなよろず相談会」に

5月24日、広島市西区にある無印良品アルパーカ店で、無印

広島病院

良品「まちの保健室」と当院「よろず相談会」を共同開催しました。

当院から離れた地域での開催のため、まずは済生会を知つてもらおうとスタッフ総出で案内チラシを配布。そのかいもあり、「健康」「医療費」「介護」の相談ブースには相談者も訪れました。認定看護師による「人生会議のすすめ—ACPをはじめてみよう」と題した講演会は来場者と会話しながら、アットホームな雰囲気で進行しました。無印良品の「まちの保健室」で行なう日々のイベントは「漢方講座」「やさしいヨガ」「アロマワークショップ」などどれもマワーケションップなどどれも目を引くものばかりで大変勉強になりました。

(済生記者 足利麻里子)



熊本の二つのイオンでGWアウトドアイベント

熊本病院



6年生までが対象で、当院は「なりきりナース・ドクター写真」とろう! やロボット手術体験など三つの企画を多職種が協働して実施。2日間で、約



350人の子どもが参加しました。足の健康チェックではサインの合わない靴を履いている参加者が多く、正しい靴の履き方を知つて驚く人も。靴ひもの締め方など丁寧に説明を行い、満足して帰る人が多くいました。

(済生記者 金子美雪)



4月26・27日にイオンモール熊本主催の「キッズお仕事チャレンジ」に出展、29日にイオンタウン西脇で「カラダと足の健康チェック」と題した健康イベントを開催しました。

イオンモール熊本のイベントは3歳から小学校

が参加しました。

イオンタウン西脇では、体組成測定と理学療法士による足の健康チェックを行ない、延べ109人が参加しました。

足の健康チェックではサ

イズの合わない靴を履いて

いる参加者が多く、正しい

靴の履き方を知つて驚く人

も。靴ひもの締め方など丁寧に説明を行い、満足して帰る人が多くいました。

足の健康チェックではサ

イズの合わない靴を履いて

いる参加者が多く、正しい

<p

イオン新居浜で講習会 人が救助活動を学ぶ



「未来に向けた持続可能なまちづくり協定」に基づく取り組みとして、4月12日にイオンモール新居浜でBLS（一次救命処置）講習会を行ない、来館者・スタッフなど34人が参加しました。

はじめに当院スタッフがAEDの一連の取り扱い方法とBLSの手順を説明し実

演。その後、参加者が2人1組となり、救助要請から心臓マッサージ、AEDの設置・起動に至る救助活動の技術習得に努めました。

「救命場面に遭遇したときの行動が学べた」「役立つ講習だった」と参加者の評価も上々。

また、インボディ（体成分分析装置）による測定、血管年齢測定を実施し、健康意識の向上にもつながるイベントとなりました。

（社会福祉課 森田真子）

イオン新居浜で健康フェア
老若男女68人が健康チェック



5月19日、イオンモール新居浜で「未来に向けた持続可能なまちづくり協定」の取り組みとして健康フェアを開催しました。イオン新居浜とのイベントは3年目を迎え、健康フェア開催も5回目となりました。当日は血圧測定・血管年齢測定・体成分分析装置による測定・健康相談・ストレス相談・口腔ケアに関する柔軟操教室を実施し、健康意識の向上を図りました。

実施。日曜日の午後ということもあり、老若男女問わず68人が参加し、「自分の身体状況を知ることができてよかったです」など好意的な意見を多数ありました。（社会福祉課 大谷祥世）

〈愛媛〉 西条病院

イオン天王町で健康相談 延べ210人来場



5月25・26日の2日間、イオン天王町ショッピングセンターで「家族の健康習慣」体験イベントが開催され、当院は健康相談ブースを出展しました。「MySCUE（マイスキューム）」というケアラー向けプラットフォームの体験型啓発イベント

トで、楽しみながら健康や介護について学べるさまざまなブースがあり、家族で健康意識を高める絶好の場となりました。

当院からは保健師、看護師、薬剤師、管理栄養士など延べ22人が参加。無料相談、血圧測定や血管硬度測定、模型を使った乳がん触診体験などを実施。全ブース中断トツの延べ210人の来場者数を記録しました。

（済生記者 小山友輝）



過ごしながら家族全員が健康新たな取り組みとして講話を実施をメインに、相談者が来たしました。

月に一度、二日市病院と協働して担当分野ごとに持ち回りで「なでしこルーム」の活動を行なっています。昨年度は相談会実施をメインに、相談者が来たしました。

過ごしながら家族全員が健康について考えるすばらしいイベントに参加できた」とスタッフ全員充実感でいっぱいでした。

（済生記者 小山友輝）

当日は2人が来場。「参加できてよかったです」「不安が解消された。どこに頼ればいいか分かったので来てよかったです」など好意的なコメントがありました。

（済生記者 岸川涼二）

神奈川県病院

〈福岡〉特養むさし苑

5月25・26日の2日間、イオンモール筑紫野内に設置している「なでしこルーム」で、福祉士が「認知症との関わり方」について講話を行いました。

イオンモール筑紫野内に設置している「なでしこルーム」で、福祉士が「認知症との関わり方」について講話を行いました。

（済生記者 小山友輝）

イオン筑紫野内「なでしこルーム」で講話

月に一度、二日市病院と協働して担当分野ごとに持ち回りで「なでしこルーム」の活動を行なっています。昨年度は相談会実施をメインに、相談者が来たしました。

ら対応していました。今年度はより能動的に、済生会ができることを知つてもらいたいと考え、新たな取り組みとして講話を実施することに。初回を当苑が担当しました。

（済生記者 小山友輝）



美味しいプロジェクトが本格始動 メニューを共同開発

京都済生会病院



ソーシャルインクルージョンの活動として、
「MOT+GOODプロジェクト」
が4月から本格始動しました。
本プロジェクトは、当院
1階のカフェ「NAKANOTEI」

COFFEE 西山」を運営する
障害者支援団体「暮らしラン
プ」と共同で、京都乙訓地域
で最後の最後まで「美味しい」
を楽しめるようにユニバーサ
ルデザインフード（UDF）



メニュー開発に取り組むとい
うものです。

当院の魅力・ブランドづくり
プロジェクトメンバーと、
塩濱奈保子管理栄養士、土本
久美子摂食・嚥下障害看護認
定看護師の専門職を交え、5
月17日、UDFにアレンジさ
れたミネストローネとブジン
(砂糖の代わりに練乳を使用



西川愛子

したプリンの試食会を実施。
大人も子どもも、嚥下障害が
ある人でも食べられるか、見
た目や味はどうか、美味しく
食べるにはどのような工夫が
必要かなどについて意見交換
をしました。

（魅力・ブランドづくりプロジェ
クト サブリーダー 松岡志穂）

受刑者による散髪ボランティア 受け入れ再開

山口地域ケアセンター

山口刑務所内の職業訓練で理
容師資格を取得した受刑者によ
る社会貢献活動（散髪ボランテ
リア）の受け入れを、5月23日
に再開しました。

当日は、50代の男性受刑者が

当センター「グループホームあ
さくら」で80代と90代の女性利
用者さん2人に對し、指導を受
けながら約1時間半かけて散髪
しました。

利用者さんは「気持ちよかつ
た」と喜んでいました。

た。「ありがとうございます」と男性に声
をかけていました。男性は「二
人ひとりの髪質や毛量が異なり
調整が難しかったが、気持ちよ
かった」と言つてもらつて、とて
もうれしかったです」と万感の
思いからか少し涙を浮かべなが
ました。

（総合企画課 広報係主任
西川愛子）

自宅を訪問して 健康福祉相談

（三重）明和病院

当院ではなでしこプラン事業
として、地域住民を対象に無
料健康相談や保健教育等を実施。
当院地域連携センターの看護師
とMSWが町の職員と連携し
て定期的に自宅を訪問していま
す。現在2人の相談対応を行な
っており、4月19日にそれぞれ
の自宅を訪問しました。

訪問では、生活環境や健康状



当日は5歳から66歳まで、11
カ国38人（通訳ボランティア
8人を含む）が来場。身体測定、
血圧、採尿、採血、胸部X線
の検査後に健康相談（診察）を
行ないました。

岡山済生会予防医学健診セン
ターからは医師4人を含むスタッ
フ24人が参加。遠隔医療通訳
のアプリがインストールされ
行ないました。

岡山市内周辺に在住の外国籍
の方への無料健康診断と健康相
談会を5月12日、岡山旭川ロー
タリークラブ・岡山済生会予防
医学健診センターの共催で実施
しました。

11カ国38人の外国人に
無料健康診断と健康相談会

岡山済生会外来センター病院

タブレット4台を使用し、両ロ
ータリークラブから参加した通
訳ボランティアと協力しながら

ドバイスをくれて気持ちが軽く
なった」と笑顔で語りました。

（済生記者 高畠貴子）

中国籍の健診者の一人は「心
身の健康についての悩みを相談
したらとても分かりやすいア
ドバイスをくれて気持ちが軽く
なった」と笑顔で語りました。

対応しました。

中国籍の健診者の一人は「心
身の健康についての悩みを相談
したらとても分かりやすいア
ドバイスをくれて気持ちが軽く
なった」と笑顔で語りました。



（医療社会事業課 國分祐樹）

フードバンク奈良に 防災用備蓄品を寄贈

〈奈良〉中和病院



良と当院による防災用備蓄品

の寄贈式を行ないました。今回寄贈したのは、キリン天然水600ミリリットル・226ケース(5424本)と焼き鳥缶7ケース(336缶)。これらはフードバンク奈良を

通して、子ども食堂や子育て家庭等に提供される予定です。フードバンク奈良の小南昌紀理事は「以前に比べて皆さんが関心を持ってください、個人からのお届けが増えまし

た」と話しました。中島祥介院長は「これからもできる限り協力させていただきたい」と活動への意欲を伝えました。

(済生記者 米井 悠)

長岡京市「にじいろ企業」に登録

京都済生会病院



関する取り組みを行なう事業所として「にじいろ企業」に登録し、6月3日に市役所で登録証を授与されました。

もとより当院では、コスト面だけでなく多様性(年齢・性別・国籍・個性)への対応として、2020年9月に事務職員の制服自由化、22年6月の新病院移転時にバリアフリートイレの設置などを実施してきました。

この登録を機に、多様な人材が活躍できる職場環境の整備や支援の輪を広げ、さらなる性の多様性への理解促進が図られるよう取り組みを進めています。

(事務部次長・人事課長
西畠慎二)

更生保護施設入所者対象に 無料健診 10人が来院

6月4日、更生保護施設に入所中の生活困窮者を対象に、今

者機構」が就労支援事業として用意した送迎バスで来院しました。宇都宮保護観察所や同機構と当院は、平成21年度から継続して連携しています。

受診者は身長・体重・血圧・



〈栃木〉宇都宮病院

不要になつた学生服のリユースに協力

ツクスを院内に設置

し、職員に寄付を呼びかけてきました。

特定非営利活動法人栃木県こども応援なのは、貧困や家庭環境により満足な学習環境を得ることができない子どもたちにリユース学生服を届ける活動を開いています。

この活動趣旨に賛同する当院では、3月1日から学校指定用品の回収ボ

視力・聴力・腹囲・肥満度を測定したほか、採血・採尿・心電図検査・胸部X線検査も実施し、内科医が診察を行ないました。

受診者の女性は「片頭痛持ち

視力・聴力・腹囲・肥満度を測定したほか、採血・採尿・心電図検査・胸部X線検査も実施し、内科医が診察を行ないました。

唐津市のサポート体制はまだ明確に確立されておらず手探り状態であり、連携士で何かサポートできることがないかを考えました。

ら合計10人が受診。特定非営利活動法人「栃木県就労支援事業

でいつ頭痛や吐き気に襲われるか不安が絶えない中で生活しています。このように無料で健診を受けられるのはありがたいことです」と話しました。

(地域連携課 秋山綾香)



アウトリーチ支援を学ぶ研修会 連携士ができることを考える

当センターの特養・ケアハウスマゼウスめずら莊は昨年度、地域若者サポートステーションへの職親登録を行ないました。そこで、この分野の理解を深めようとした。月17日に研修会を実施しました。

当日は、当センターの地域包括ケア連携士11人と公認心理師2人が参加。アウトリーチ型の活動を行なう認定NPO法人スチューデント・サポート・フエイス(S·S·F) 唐津事務所の中島直子さんを講師に迎え、佐賀県・唐津市のひきこもりや不登校児童の現状、それに関する行政対策やサポート事業、対象者への具体的な関わり方などを学びました。

唐津市のサポート体制はまだ明確に確立されておらず手探り状態であり、連携士で何かサポートできることがないかを考えました。

(特養・ケアハウスマゼウスめずら莊
主任生活相談員 森田重希)

〈佐賀〉唐津医療福祉センター



すずき・まさゆき 1958年、東京都生まれ。94年、共同テレビからフジテレビに移籍。「王様のレストラン」(95)、「ロングバケーション」(96)、「ショムニ」(98~2002、13)、「古畑任三郎」(99)、「HERO」(01、14)など、同局を代表する大ヒットドラマを演出。映画監督としても、『GTO』(99)のデビュー以降、『HERO』(07)、『マスカレード』シリーズ(19、21)、『湯道』(23)などヒット作を撮り続けている。日本を代表するヒットメーカーの一人。

「ONE DAY ~聖夜のから騒ぎ~」
クリスマスイブのたった1日の出来事を連続ドラマとして描いた謎と愛と奇跡の物語。殺人犯として逃亡する記憶喪失の男(二宮和也)、老舗レストランで代々受け継がれてきた秘伝のソースを失い窮地に陥る孤高のシェフ(大沢たかお)、自らの企画で立ち上げた報道番組の打ち切を突然告げられた報道キャスター(中谷美紀)、一見無関係に見える男女が次第に運命の交錯に導かれ、ある奇跡にたどり着く。

「ONE DAY ~聖夜のから騒ぎ~」

二宮和也、中谷美紀、大沢たかお 【逃亡編】中川大志、松本若菜、中村アン 【レストラン編】桜井ユキ、井之脇海、今井英二、栗原英雄 【地方テレビ局編】福本莉子、小手伸也、加藤諒、大水洋介、丸山智己、梶原善ノ江口洋介、佐藤浩市 ほか
脚本: 徳永友一 プロデュース: 成河広明 監督: 鈴木雅之、三橋利行、柳沢凌介、片島章三
Blu-ray&DVD BOX 発売中! 発売元: フジテレビジョン 販売元: ポニーキャニオン



©2023 フジテレビジョン

二宮和也さんの「逃亡編」、中谷美紀さんの「地方テレビ局編」、大沢たかおさんの「レストラン編」、三つの物語が同時進行していく連続ドラマ「ONE DAY ~聖夜のから騒ぎ~」を演出。これまで数え切れないほどのドラマを撮ってきたが、こんな斬新な切り口で物語を撮つてきたが、こんな斬

新たな試みは初めてだったという。「作品の質と時間との闘いを求めるTVドラマでは不可能な、まさに映画の企画です。でも、TVが挑戦する価値はあると思いました。目指したのは、3つの話をクリスマスイブの1日を通して徐々に集約し、最後

に小さな奇跡が起こるファンタジーです」

ただ、3人の主演以外にも大勢のキャストがいて、全員が生き生きと描かれなければせつかりの心意気が仇になってしまふ。しかし、そこは「HERO」「ショムニ」といった群像劇で知られる鈴木監督のこと。準備期間がないなかでも一人ひとりに明確な性格を提示し、「その人がいる意味」を重視したそう。「それぞれのキャラクターを立て、意味を積み重ねることがドラマの骨になる」と語る。

「なかでも主演の3人が自分の世界観をまつとうしてくれたことによって、この複雑なドラマも最後まで完走できた。絶体絶命のピンチに立たされながらも『今日といい』とがんばる彼らの姿を、みなさんにも見届けていただきたいですね」

3本のドラマが同時進行……?

ヒットドラマの生みの親が語る舞台裏



演出家の鈴木雅之さんといえば、『HERO』シリーズ、映画『マスカレード』シリーズなどを手がけたヒットメーカー。昨年は、二宮和也、中谷美紀、大沢たかおの3人を主演に迎え、「たった1日の出来事」を1クールのドラマに仕立てました。DVD化にあたり、3人の魅力や本作の見どころ、演出のこだわりについて聞きました。

Text: みやじまなおみ
Photos: 安友康博



Vol. 170





こ う ふ に つ ぱ ん

吉井省一

わたしが好きな落語の演目に

「時そば」があります。屋台のそ

ば屋で勘定の数え方をごまかす

客を見て、真似をした主人公が

逆に損をしてしまうお話です。

扇子を箸に見立ててそばを食べ

る仕草で嘶家の力量がわかり、

名人と呼ばれる人なら、見てい

る人は皆、すぐにそばが食べた

くなるほどと言われています。

これぞ、まさに落語の醍醐味。

今回は、数ある名物そばの中

でも味も見た目も特徴がある、

魚沼地方の名物「へぎそ

ば」。初めて食べた時、その獨

特な味に感動したことを覚えて

います。

知っているようで知らないなかつ

た名前の由来から滋味深い味わ

いながら、これがなかなか

なる冷たいおそばがお薦めです。

織物に活用されるふのり（写真左）をつなぎに使い、そば作りに最適な自然環境（写真中央）で、昔ながらの臼挽き（写真右）にこだわる。すべては“旨いそば”的

つるつるした食感と
のど越しの良さを実感

やはり「へぎそば」といえば、
滑らかさやコシの強さが感じら
れる冷たいおそばがお薦めです。



冷水で引き締めたそばは、絹糸を丁寧に織り上げるような見事な手技で「へぎ」に盛り付けられる。この美しい盛り付けも、ふのりをつなぎに使った滑らかなそばゆえのこと。昭和23(1948)年には皇室献上品の栄誉も賜る



いまで詳しくご紹介しましょう。
そば通も思わずうなる

魚沼地方の名物そば

この「へぎそば」を考案した

のは、創業百年を超える老舗・

吉井省一

方言から来た
化していった
ぐへと変

ものです。



そば好きなら一度は訪れた小嶋屋総本店。この夏も遠方からたくさんのお客さんたちが「へぎそば」を食べに来ることでしょう

ぎの麵は滑らかではね返すよう
なコシもあり、鼻に抜ける纖細
なそばの風味を楽しめます。

この麵の豊かな味わいを引き
出してくれるのが、鰹節や鯖節、
昆布で丹念にとつたこだわりの
つゆ。茹で汁を入れて最後の一
滴まで堪能し尽くしたい。

日本酒を傾けながら、そばを
手繰るのが粹だと言われます。

新潟は銘酒の宝庫ですから、こ
の機会に辛党の方はへぎそばに
合う地酒を探してみるのも一興。

日本でそばが人気なのは、日
本の夏が暑くて湿気が多いせい
だと言った作家いました。今

の香りがほんのりして、舌触り
もとても滑らか。

さあ、後は背伸びせず、添付
のゆず七味・すりごまを入れた
そばつゆに軽く潜らせて。ああ、
やっぱりこれだ。冷たい麵がの
どをツルツルと通り過ぎる感
覚がたまりません。ふのりつな



織物に活用されるふのり（写真左）をつなぎに使い、そば作りに最適な自然環境（写真中央）で、昔ながらの臼挽き（写真右）にこだわる。すべては“旨いそば”的

年もまだ厳しい暑さが続き
そう。冷たい「へぎそば」で
暑い夏を乗り切りましょう。



大正22(1922)年に初代・小林重太郎(写真左)が開業した「小嶋屋総本店」。二代目(写真中央)から三代目(写真右)へ、そばへの熱い想いは受け継がれている



生へぎそば(4人前)
[そば340g×2、めんつゆ140ml×4、ゆず七味・すりごま付]
3,456円(税込・送料別) 消費期限……製造後冷蔵4日間

お取り寄せ・お問い合わせは
小嶋屋総本店

〒948-0135 新潟県十日町市中屋敷758-1
TEL: 0120-4545-81 FAX: 0120-548-014
ホームページ: <https://kojimaya.co.jp/>

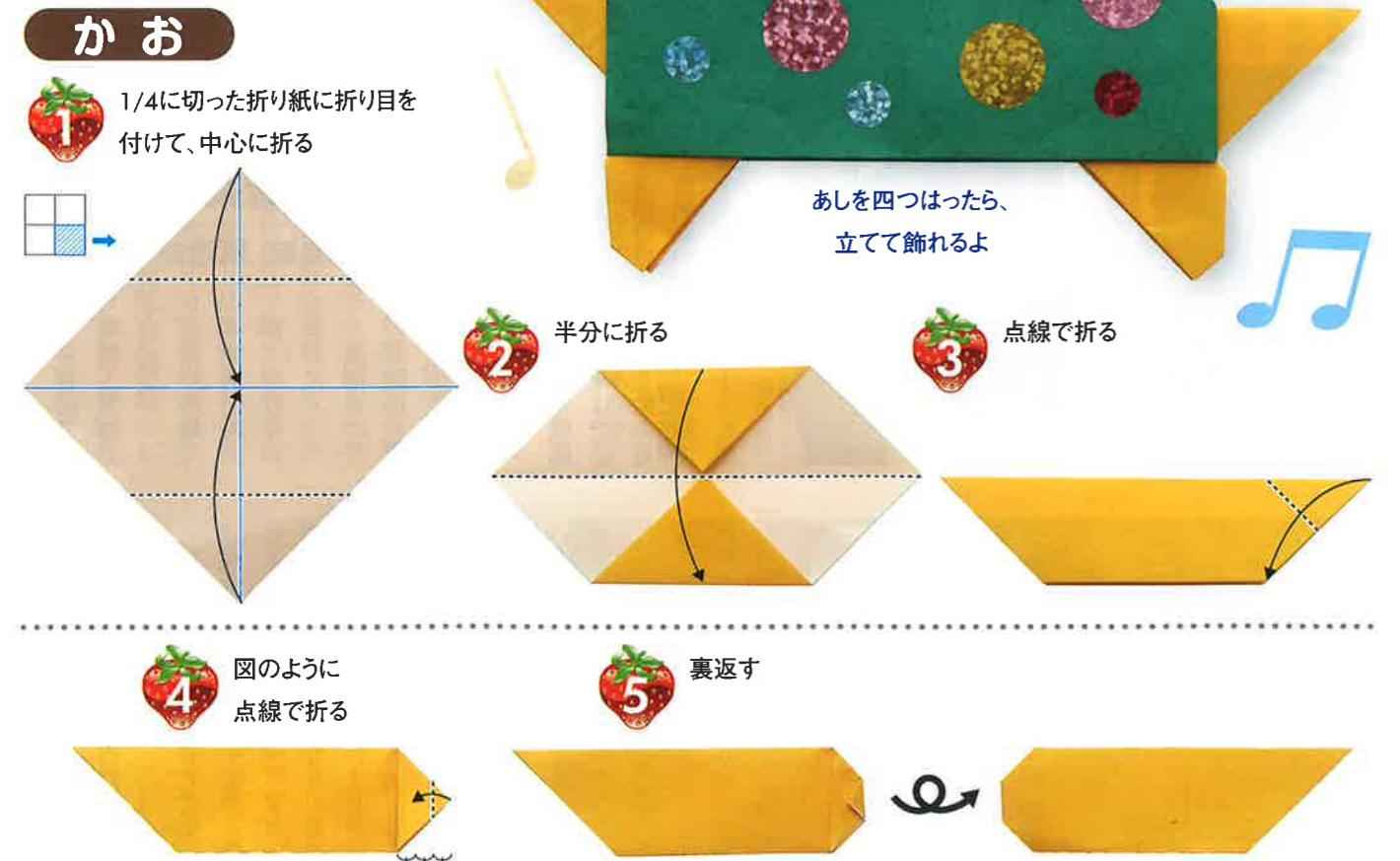
小嶋屋総本店の初代と言わ
れています。地元で盛んだ
った織物で縄糸をピンと張
るために使用していた「ふ
のり(海藻の一種)」をつな
ぎに使い、木製の四角い器
「へぎ」に盛り付けたこと
から生まれました。この
「へぎ」とは、木を剥いで作
ったことで「剥ぐ」が「へ



済生会の「病院・施設」がある
県内の市町村

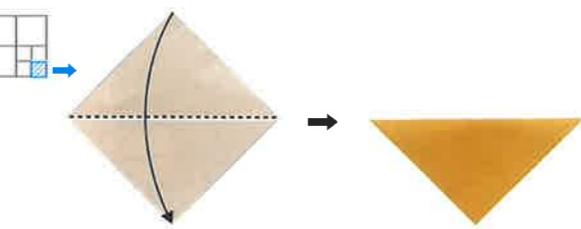
よしい・せいいち 一般社団法人日本作
詩家協会理事。コピーライター時代に老舗
百貨店の食の通販誌で約30年執筆に携わ
り、試食した食品の数は1万点を超える。

ゆつくりのんびり ハッピーなかめさん



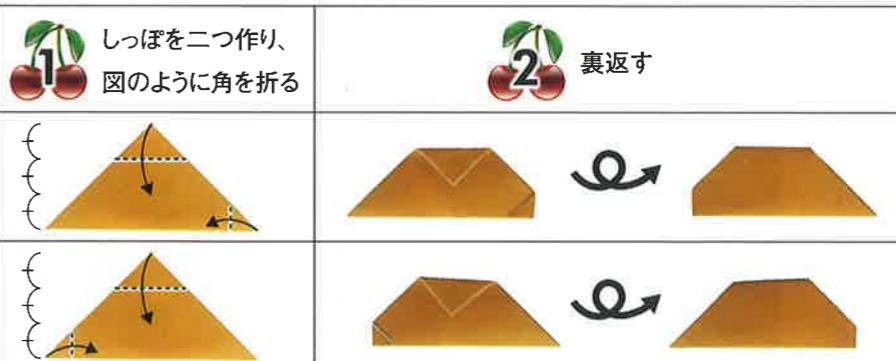
しつぽ

1/16に切った折り紙を半分に折る

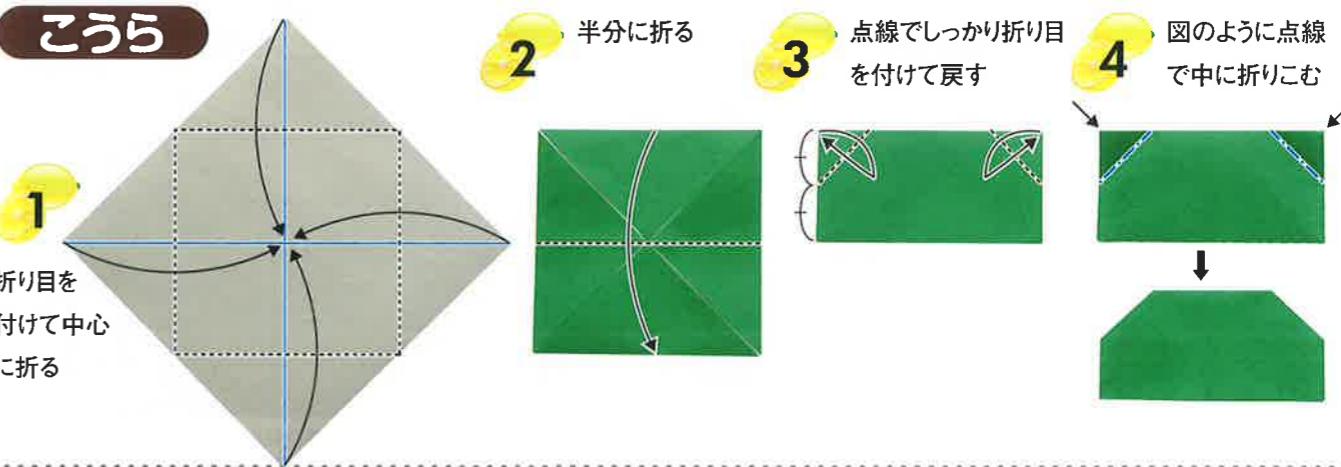


だれでもかんたん
てづくり
おもちゃ

あし

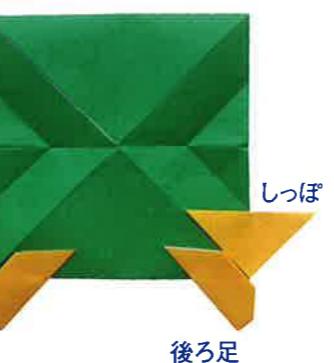


こうら



組み方

- 1 こうらを開いて図のように、あしとしつぽをはる



- 2 図のようにかおをはる



- 3 こうらをもどしてはり、目と口を描いて完成



こうらの模様を
かいても楽しいよ♡



【いまいみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えています。著書に「365日たのしい折り紙」(日東書院)、「12か月のおりがみ髪飾り」(講談社)など39冊。最新刊は「1年中使える! 決定版おりがみ図鑑」(講談社)。



動画もcheck!



室長を講師に招き、災害時医療対応の原則であるCSCA（メディカルマネジメント）の「指揮と連携」「安全」「情報伝達」「評価」の各項目が福祉施設においていかに重要なかを学びました。

南海トラフ地震は30年以内の発生確率が高まっているといわれています。

AED救命救急訓練を再開

6月12日、湯浅広川消防組合の指導のもと「AEDによる救命救急訓練」を実施しました。同訓練は新型コロナの影響で令和4年度から中止していましたが、災害対策委員会および事故防止対策委員会の判断で再開しました。

れでいて、発生時に的確な初動対応が取れるよう、今回の研修で学んだことを他の職員と共有し、万事に備えていきます。

（泉尾特養第一大正園 済生記者 黒木洋輔）

参加者は15人。初めて取り組む人が多くて緊張気味でしたが、消防士の丁寧な実地指導を受け、落ち着いて訓練にトライできただけでした。

浦崎弘之施設長は「当施設の運営を開始して4年目を迎ますが、これまでにAEDが救急現場で3回も活用され、利用者の方々の生命を守ってきました。実際に触れて使ってみると、消防士の丁寧な実地指導を受け、落ち着いて訓練にトライできただけでした。

消防士の丁寧な実地指導を受け、落ち着いて訓練にトライできただけでした。

（済生記者 山崎良彦）

FLSを「存じですか？」

FLS (Fracture Liaison Service) とは、日本語で骨折リエゾンサービスといい、さまざまな職種が連携して脆弱性骨折患者に対する骨粗鬆症治療開始率や治療継続率を上げることも、転倒予防を実践することにより軽微な外力で発生する骨折で、一度脆弱性骨折を起こした人の二次骨折のリスクは極めて高くなります。特に高齢者の



（和歌山）特養潮光園 済生記者 黒木洋輔）

〈大分〉日田病院



（愛媛）小田老健ふじの園。地元のボランティアさんが庭の草刈りと藤棚の手入れをしてくれました。

topics

不正薬物密輸犯に備え 税関・警察と合同訓練

（鳥取）境港総合病院



5月21日、税関・警察と合同で「不正薬物密輸入事犯摘発時訓練」を行ないました。境港市の空港には、米子空港のほかに国際線のソウル便が就航しています。今回の訓練は空港の税関検査で不正薬物を飲み込んだ密輸疑いが発生し、当院で検査・入院に至ったケースを想定して、今回も訓練は空港で実施されました。今回の訓練は空港で実施されました。

（済生記者 龍尾美子）税関検査で不正薬物を飲み込んだ密輸疑いが発生し、当院で検査・入院に至ったケースを想定して、今回も訓練は空港で実施されました。今回の訓練は空港で実施されました。

（済生記者 龍尾美子）税関検査で不正薬物を飲み込んだ密輸疑いが発生し、当院で検査・入院に至ったケースを想定して、今回も訓練は空港で実施されました。今回の訓練は空港で実施されました。

〈大阪〉泉尾医療福祉センター 南海トラフ地震等を見据え 5施設合同でBCP研修

5月31日、泉尾医療福祉センター・福祉施設の5施設合同で「大規模災害とBCP（業務継続計画）の必要性」をテーマとする研修会を実施しました。

（済生記者 杉山菜央）参加者は総勢57人。（埼玉）加須病院災害対策室の奥野史寛

topics

〈山口〉 豊浦病院

なでしこマークの 特定看護師 オリジナルバッジ

令和5年度から特定行為指定

研修機関として特定看護師を育成する当院では、この度、特定

看護師オリジナルバッジを作成しました。

済生会の紋章であるなでしこを取り入れたシンプルなデザインは、看護部と事務で考えまし

しました。

済生会の紋章であるなでしこを取り入れたシンプルなデザインは、看護部と事務で考えまし

ました。



（済生記者 西田千鶴）

〈石川〉こども園アイリス 親子遠足で自然と触れ合う 実習生も充実の時間

（済生記者 西田千鶴）

50年続く無医地区小呂島での健康診療

福岡総合病院

福岡総合病院

6月6日から2日間、無医地区の小呂島で定期健康診療を行いました。

福岡市西部の港から船で約1時間、玄界灘にボツンと浮かぶこの島への健診は今年で51回目。医師、歯科医師、看護師、メデイカル部門など計22人が参加し、2日間で69人の島民に健診を実施しました。

約150人の島民の皆さんとの交流は深く、港に船が着くときには再会を待ち望んだ家族

とお話しを交わすなど、島民の方々との交流は深く、港に船が着くときには再会を待ち望んだ家族



お礼言上の大役を務める

筆者はこのたびの春の叙勲に際し、保健衛生功労として瑞宝小綬章受章の栄に浴しました。

5月10日、こども家庭庁で代表伝達者として同庁長官から勲章、勲記を受けた後、皇居へ参内。豊明殿で数千人の拝謁者の前で天皇陛下にお礼を申し述べ

採用されたのは前開きチャック式のスタイル

新しいユニホームには、6月

末、7月初めに順次切り替え予定です。（済生記者 鈴木香純）

新しいユニホームには、6月

末、7月初めに順次切り替え予定

済生丸の X(旧Twitter)開設

済生丸を多くの人に知ってもらうため、5月にX（旧Twitter）を開設しました。

瀬戸内海巡回診療船「済生丸」は、昭和37年12月に済生会創立50周年記念事業として運行を開始し、今年で62年目を迎えます。

平成23年からは岡山・広島・香川・愛媛各県済生会の共同事業となり、瀬戸内



外国人患者を受け入れ 入管局から感謝状

海に浮かぶ60の島々を巡回して診療や検診を行なっています。Xでは最新の検査機器を搭載し、「海を渡る病院」とも呼ばれる済生丸の活動情報、船員が撮影した瀬戸内海の美しい海や空、のどかな島の風景、船内の解剖図のイラストなども紹介しています。ぜひフォローをお願いします。

（済生記者 高畠貴子）



新園長を迎えて創立祭

当園創立28周年を祝う「若葉祭」を5月28日、3・4階の各フロアで開催し、利用者さん39人・職員36人が参加しました。エビのにぎりやいなり寿司と玉割りを合図に、歓声と拍手で生徒さんの緊張もほぐれ、

人には初めての体験を前にして、緊張とともに意気込みが感じられました。

リハビリ運動では「私も汗ばむくらいの運動を利用者さんがしているなんて」と驚いていました。利用者さんと会話すると、

（大阪）泉尾特養第一大正園

三角隆彦院長は「これからも変わらず協力し、目の前の患者さんに對してしっかりと医療を提供していきたい」と話しました。（済生記者 荒木愛美）

中学生がデイサービス体験

5月14～16日の3日間、山辺町立山辺中学校の2人の生徒さんが当社デイサービスセンターを訪れ、利用者さんと一緒にリハビリ運動を体験しました。

だんだんやわらかい笑顔を見せてくれるようになりました。今回の交流活動を通して高齢者への理解を深め、働くことの意義を学び、将来の進路について考えるきっかけとしてくれることを期待します。

（済生記者 岩田恭寛）

手のうちに創立祭が始まりました。職員のマジックショー、二人羽織、ドレミパイプの演奏が披露されると、フロア内が驚きと笑顔で包まれました。

（済生記者 黒木洋輔）

美容専門学校で 認知症サポートー養成講座

毎年恒例となっている社会体験学習「わっくWORKやまのべ」の一環で、生徒さん2

5月29・30日に山形美容専門学校の学生を対象に開かれた認知症サポートー養成講座に、当施設から筆者も含め3人が講師として出席しました。これは同校の外部講師でもあり認知症キャラバンメイトの松田治美さん（美容室 Hair with Water 表取締役）から依頼されたものです。

この日は1年生76人が受講。



美容関係の仕事では認知症の人と接する機会も想定され、「将来のため」と学生も積極的な姿勢で受講していました。講義の後のグループワークでは認知症の疑いがある人への対応について、それぞれ活発に意見を出し合っていました。終了後のアンケートには「認知症に対して偏見を持たずに、自分のこととして考えていくべき」などの感想や決意の言葉がありました。（おれんじサポートチームえがお介護職員 武田はるか）





当施設は今年6月1日で開設15周年を迎えました。入居者さん29人そろっての記念撮影では、皆さん満面の笑顔で応じてくださいました。

また、お祝いの食事会を催し、昼食にはにぎりおやつには紅白まんじゅうを振る舞いました。普段とは一味違う豪勢な料理に皆さん舌を打ち、「おいしい」といながら召し上がるっていました。

金沢病院へご支援ありがとうございました。

金沢病院で災害支援活動

本部からの派遣要請を受け、筆者は2月1～8日、3月28日～4月4日の2回、金沢病院で応援ナースとして活動しました。金沢病院では診療補助業務の支援や、同院の感染管理認定看護師と一緒に院内ラウンドによる感染防止対策を行いました。自身も被災者であるスタッフさんが患者さん一人ひとりに優しく接している姿に、とても心を打たれました。大変な状況の中で、温かく迎えてくださった石川県の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

また、チームで多職種と連携



(病棟看護師課長 藤吉初美)

中には開設当初からの入居者さんもいます。地域密着型介護老人福祉施設として、地域の人々との交流を通して年月を重ねることができたのだと改めて実感しました。

（ユニットリーダー 高木政幸）

鼓を打ち、団々に「おいしい」といしながら召し上がりながら「100%」に変更しました。

（医事課 山田敦英）

金沢病院で災害支援活動

本部からの派遣要請を受け、人が100%に非常に有意義な会を開催することができました。

（地域医療連携室 小池秀近）

5月14日から17日までの4日間、「ふれあい看護週間」を開催。期間中は血圧測定、体組成分析（筋肉量・体脂肪量・体水分量の測定）、医療介護相談、乳房模型での触察体験、乳がんの自

し情報共有をしながら迅速に対応していくことが、よりよい看護につながることを学びました。

（感染管理認定看護師 副看護師長 岩崎智子）

5月14日から17日までの4日間、「ふれあい看護週間」を開催。期間中は血圧測定、体組成分析（筋肉量・体脂肪量・体水分量の測定）、医療介護相談、乳房模型での触察体験、乳がんの自



己検診指導、手洗い体験などを実施。今年は新たに食中毒と誤嚥性肺炎対策のポスターを掲示し、啓発活動を行ないました。

また、朝採血後の患者さんの待ち時間対策にもなるよう、開催時間を例年より1時間早め9～11時に設定。その成果もあり、参加者数は昨年の142人から261人とほぼ倍増しました。患者さんは「待ち時間を使っていろいろ調べてもらって助かった」「空き時間が有効に使えた」などの声があり好評でした。



開設15周年を皆で祝う 小規模特養なでしこ神戸

6月1日で開設15周年を迎えた。入居者さん29人の食事会を催し、昼食にはにぎりおやつには紅白まんじゅうを振る舞いました。普段とは一味違う豪勢な料理に皆さん舌を打ち、「おいしい」といながら召し上がっていました。

また、お祝いの食事会を催し、昼食にはにぎりおやつには紅白まんじゅうを振る舞いました。普段とは一味違う豪勢な料理に皆さん舌を打ち、「おいしい」といながら召し上がっていました。



埼玉 鴻巣病院 キャッシュレスシステムで支払いをデータ管理

かねてより検討していた精神科病院専用のICカードデータ管理することで、院内でのお金の流れが「見える化」されます。院内の売店との連携により、購入した商品や利用时刻をリアルタイムに把握できるため、患者さんの安心にもつながります。

また、各病棟に設置の公衆電話もIC電話に切り替え、電話をかけた相手、日付、時刻料金が管理できるようになります。また、各病棟に設置の公衆電話もIC電話に切り替え、電話をかけた相手、日付、時刻料金が管理できるようになります。

7回目となつた今年の講演テーマは呼吸で、タイトルは「息・活き（イキイキ）と長生した。

健康講座2024」を開催し、40代から90代までの幅広い年齢層の市民105人が参加しました。



埼玉 川口総合病院 「また参加したい」が

6月8日、川口駅前市民ホール「フレンディア」で「済生会

制」に変更しました。

（医事課 山田敦英）

（ユニットリーダー 高木政幸）

（埼玉）鴻巣病院
「また参加したい」が

（医事課 山田敦英）



ら病院周辺の歩道、近隣の公園や駐車場などを回り、タバコの吸い殻やペットボトル、飲食物の包装紙などのごみを回収しました。



鳥取大学医学部医学科の4年生8人が、当院で地域医療体験実習を行ないました。

4月17・24日、5月1・15日の4日に分け、各日2人ずつ腹部超音波検査、リハビリテーション、薬剤科業務などを見学・実習しました。薬剤科では、岩間謙治薬剤科長と一緒に散剤の調剤や注射調剤に取り組みまし

鳥取大医学生8人が実習

すがすがしい気持ちに
」と感想を述べています。



皆さんは、「美味しい
リームソーダなんて何
だろう」「毎週実施して
と喜びの言葉を多数あ
ました。



金賞
Gold Medal

福井県済生会病院
が学会で
Medal

されたもので、日本の一般病院の医師では初めての受賞となります。



〈千葉〉 習志野病院
つながりづらい人たちへの
支援を学ぶ

クで開催された「APSCVI」R(アジア太平洋IVR学会)で、当院放射線科の宮山士朗主任部長が、日本人で9人目となるGold Medalを受賞しました。悪性の消化管や胆管狭窄に対するカバードステントを用いた治療法の開発、細径マイクロカテーテル・コンビームCT・支援ソフトウェアを用いた肝動脈化学塞栓療法手技の確立と、論文発表や講演、実技指導による学術・教育面での活動が評価されました。

「第11回生活困難者等支援不^ツ
院で開催し、56人が参加しまし^タ。

A photograph showing a group of approximately 20-30 people in a large room, likely a conference hall or workshop space. They are all wearing white face masks. The people are seated at long tables covered with white cloths, which have various items like papers, pens, and small containers on them. In the foreground, a man with dark hair and a blue button-down shirt is standing and facing a group of people seated at a table. To his right, another person in a yellow top is also seated at the table. The room has white walls and several recessed lights in the ceiling. There are some red and white signs on the wall in the background.

長岡京市530運動に
美しいまちづくりに貢献

**長岡京市530運動に
美しいまちづくりに貢献**

今年も長岡京市の530（ご
みゼロ）運動に参加し、5月27
日に病院周辺のゴミ拾いを実施
しました。

当日は事務部や看護部を中心
に職員32人が参加。最寄り駅か
ら

テレビニュースで救急対応のリアルな現状を

〈山口〉下関総合病院

当院救急部の救急対応の様子
が、4月24日に地元テレビ局
(KRY山口放送) のニュース
番組で紹介されました。

下関市では夜間休日の救急対
応を4病院輪番制で行なつてい
ますが、6月から3病院に減少。
負担増加が懸念される医療現場
にカメラが入りました。

インタビューに答えたのは、
森健治院長と清水倫子看護師長。
「限りある医療を持続可能にす
ます」とは、医療現場の現状を伝
えるものとなつており、後日、
患者さんから「テレビ観たよ、
頑張って」など励ましの言葉を
いただきました。

(済生記者 安岡佳成)

恒例の綿菓子店は大盛況

6月8日、静岡済生会総合病
院で「済生会フェア」が行なわ
れました。コロナ禍を経て昨年
11月に久々に開催され、徐々に
元通りの姿に戻りつつあります。

当苑では、恒例の綿菓子店を
出店。今年はより多くの方に手
早く綿菓子をお届けしたい一心
で、綿菓子機2台を用意しまし
た。また、2台体制にしたこと
で、小さなお子さんに綿菓子作
りを体験してもらいました。

4年ぶりの運動会

6月1日、全学年計105
人と保護者参加による運動会を、
4年ぶりに開催しました。

特に5歳児のパラバーンや
リレーには「感動した!」とい
う声が続出。運動会を通して子
どもたちのさまざまな成長を感
じることができました。



佐々木祐一郎
院長に感謝状
治県知事から
して、平井伸
大な貢献をし
た医療機関と
ました。



済生会職員が作成したアレンジ作品を紹介します。



アニメーション制作ツールを使って清涼感
たっぷりの「さいせい」
【作者】岡山県済生会 広報企画課副係長
六岡智輝さん



京都済生会病院のキャラクター「京なでし
こちゃん」とコラボした「さいせい」
【作者】京都済生会病院 経営企画課主事
白須優也さん



(済生記者 安岡佳成)

静岡 特養小鹿苑

利用者さんも参加。多くの方の
笑顔を間近で見ることができ、
充実した1日となりました。

(地域貢献委員会 狩野 陽)
員6人は疲労困憊でした。
地域の方々をはじめ、当苑の
売してしまった盛況ぶり。休憩な
して綿菓子をひたすら作った職
員6人は疲労困憊でした。

りを体験してもらいました。

結果、昨年をはるかに上回る
300人が小鹿苑ブースに来

り

場し、予定時間の1時間前に完

売してしまった盛況ぶり。休憩な

して綿菓子をひたすら作った職

員6人は疲労困憊でした。

地域の方々をはじめ、当苑の

売してしまった盛況ぶり。休憩な

して綿菓子をひたすら作った職

topics

研修や身体拘束・認知症ケアの
グループワークを実施しました。
身体拘束研修では、実際に拘
束帶やミトンでの身体拘束を体
験してもらいました。認知症マ
ツも体験し、身体拘束を介助す



看護部新人研修に11人 身体拘束など体験

看護部に入職した新卒・既卒合わせて11人の看護・介護職員に対し、4月2・3日の両日、医療安全・感染対策などの基礎

るための手法も学びました。

また、グループワークでは、帰宅願望の強い認知症患者さんの対応について多職種で活発な意見交換ができ、今年度の看護部目標である「質の高い看護・介護の推進」への貢献が期待でききました。

研修の最後には、同期で花を囲んで記念撮影。帰属意識を高め、明和グループ職員としての第一歩を踏み出しました。

（副看護部長 椿 真弓）

組合加入でクリーニングの 知識・技術向上を目指す

当園は4月1日、「神奈川県クリーニング生活衛生同業組

合」に加入しました。
神奈川県済生会のユニホームのクリーニングを行なっている当園職員には、障害者施設の支援員の側面と、クリーニングのプロフェッショナルという二面性が要求されます。

現在、国家資格であるクリーニング師を藤本武園長と古賀孝紀支援係長の2人が取得していますが、他の職員の取得も推進しています。また、組合が実施する講習に参加し、情報交換を通してクリーニングの知識と技術の向上に努めています。当園利用者さんのクリーニング師誕生日も夢ではありません。

さらには、利用者さんの就労機会の提供や、ユニホームを着る人へのサービス向上につながればと思っています。

（済生記者 日高 純）

特別支援学校から実習生

当院の障害者雇用率は昨年実績で2・0%と基準に達しておらず対策が急務となっています。誰もが働きやすい環境を整え、やりがいを持つて働く職場づくりの一環として、5月13日か



金沢若草園

組合加入でクリーニングの 知識・技術向上を目指す

当園は4月1日、「神奈川県クリーニング生活衛生同業組



大牟田病院

特別支援学校から実習生

当院の障害者雇用率は昨年実績で2・0%と基準に達しておらず対策が急務となっています。誰もが働きやすい環境を整え、やりがいを持つて働く職場づくりの一環として、5月13日か



がん研究への支援をつなぐ 「生命の駅伝」

（三重）松阪総合病院

5月11日から6月1日まで、三重県で「第30回生命の駅伝」が行なわれました。

は、がん患者や医療関係者ががん研究への支援のため市役所や病院等に立ち寄

千葉 救護施設猿田の丘 なでしこ

町をキレイに! ごみZERO運動

5月29日、当施設の職員3人と利用者さん7人で「ごみZERO運動」を実施しました。この運動は利用者さんの体力面の考慮し、初夏の5月と秋の10月ごろの年2回実施しています。

今回は当施設の最寄り駅であるJR猿田駅周辺と猿田神社の駐車場をきれいにしました。



約1時間程度、周辺のごみを「ZERO」にして施設へ戻ってきた利用者さんの表情を見たところでもすがすがしく、充実感に満ちあふれていました。

（済生記者 羽根川 希）

た。利用者さんは住民として町の環境整備に貢献しようとしている懸命に落ちているごみを拾つてくれました。

1995年に医師や起業家で成る「生命の駅伝の会」が始ま、今年で30年目。これまでに約5000万円を集め、100件を超す研究に対する支援が行なわれました。

（総務課 中島朋子）

（総務課 中島朋子）

た。利用者さんは住民として町の環境整備に貢献しようと、一生懸命に落ちているごみを拾つてくれました。

1995年に医師や起業家で成る「生命の駅伝の会」が始ま、今年で30年目。これまでに約5000万円を集め、100件を超す研究に対する支援が行なわれました。

【大阪】中津病院 将来は薬剤師・助産師に！ 中学生が職場体験

6月6・7日の2日間、大阪市立大淀中学校2年生の生徒さんが2人、当院に職場体験に来ました。

将来は薬剤師・助産師になり

な穴を開けたものを人体に見立てての内視鏡カメラでのアーム操作や、手術支援ロボット「ダーピンチ」の操作を体験。「普段入れないような場所で、いろいろな体験ができる本当によかったです」とうれしそうに話していました。

二人にとつて思い出に残る職場体験となり、将来、医療従事者になってくれることを期待しています。

（済生記者 鈴木亜希乃）



（静岡）特養小鹿なでしこ苑 防災研修と災害時対応訓練

5月24日、職員19人が苑内研修で防災について学びました。まずBCP（事業継続計画）の説明があり、自然災害などに備えて職員全員が理解しておくべき対応について学びました。次に静岡DWAT隊員による能登半島地震の報告があり、現地での支援の様子や思ったことなど貴重な話を聞くことができきました。その後、座学を終えると段ボールベッドの組み立てとベルカラート（救護用担架）を使用しての移送訓練を行いました。

たいという一人。看護師のユニホームを着て、薬剤部を見学し、産科病棟では赤ちゃんの人形を使って沐浴体験をしました。

手術室の見学では、オペ前の手洗いとガウンの着方のレクチャーを受け、ダンボールに小さく感想を述べました。

（済生記者 酒井あい）

参加者は「普段できない体験ができたよかった」「病院をより身近に感じることができた」との感想を述べました。

（済生記者 酒井あい）

完成した段ボールベッドは寝てみると強度があり、体重が多い方でも安心して寝られるものとなりました。移送訓練では実際に人を持ち上げ、横移動と階段移動を実施。男性2人がかりでも持ち上げるのにけつこう苦労している様子が見られました。

（済生記者 石田遼祐）

静岡済生会総合病院 病院をもつと身近に 済生会フェアに2000人

6月8日、25回目となる済生会フェアを開催し、地域住民など約2000人が来場しました。

会の実現のために地域で支え合う医療と福祉」をテーマに、点字体験、学生服の回収・リユースランドセルの相談会、能登半島地震の災害支援に関する展示、縫合・薬の分包などの職業体験や簡易健康診断など合計47の企画がフェアを盛り上げました。



ステージでは地元ダンススクールのキッズダンスやフラダンス、プロサッカーチームのコール・ヤクルトマンによるインクルーシブスポーツ体験、静岡市立豊田中学校吹奏楽部の演奏や職員によるバンド演奏など、イベントが盛りだくさん。

院内では「インクルーシブ社



14

感染症や災害でも幅広く 対応できる看護人材育成を

本部事務局

日本看護協会主催の全国看護師交流集会Ⅰ「病院領域」が6月7日、東京国際フォーラムで開催され、医療関係者ら1369人が来場しました。

樋口幸子看護室長が「医療現場での基本指針の活かし方～病院看護の実践～」と題して講演を行いました。

5月24日、静岡済生会総合病院の産業医である三野暢哉医師を講師に招き、健康講座を開催しました。

（済生記者 西野正美）

利用者さんと職員が一緒に学べる健康講座

静岡市心身障害者ケアセンターとなりました。

4回目となる今回のテーマは、夏本番を控えてリスクが高まる「熱中症」。三野医師は「水分をたくさんとることはもちろん、部屋の温度を下げることが大切」といった熱中症予防のポイントに加え、県内で増えていくRSウイルスとマダニへの注意喚起をしました。

12人の利用者さんが参加し、熱中症について「汗をかいたら拭いた方がよいですか？」と積極的な質問が出るなど、意識の高さがうかがえる有意義な講座



熱中症について「汗をかいたら拭いた方がよいですか？」と積極的な質問が出るなど、意識の高さがうかがえる有意義な講座



"癒やし" のコンサート

横清澄氏によるボランティア
コンサートを5月21日に緩和ケ
ア病棟で開催しました。

横さん

柴田麻美さんと、ご自身が演奏した。療養中に当院音楽療法士の棟で療養の日々を送っています。当院に搬送され継続的ケア病院に



病棟内で大白熱の運動会

5月30日、地域包括ケア病棟でレクリエーションの一環として運動会を開催し、6人の入院患者さんが参加しました。

種目は玉入れと棒サッカーの二つ。紅白に分かれての3対3の対戦で、どちらの競技も白熱し、病棟に歓声が響きました。

玉入れでは紅組が見事な投球コントロールで勝利を收め、続く棒サッカーでは序盤から白組が攻勢で、勢いそのままに勝利を手にしました。



病院の仕事に興味津々

技に取り組み、面会に来た家族も交じって笑顔が絶えない楽しい運動会となりました。

白熱の運動会

「自分が植えたイモの種類は？」
「何色のジャガイモが収穫できるのか？」——秋に楽しく収穫できることを目指し、今後は塩谷小学校全児童と教職員、当施設スタッフで立派なイモに育つことを祈りながら、水やりや草むしり、肥料まきなどをして共同で取り組んでいきます。



縫合結紮講習会

習會

1年目研修医を対象に、4月26日、外科主催の「縫合結紮講習会」を開催しました。近隣の

松阪市民病院との合同開催となつたこともあり、両病院から21人の研修医が参加しました。

介護福祉士国家試験に 合格! 現場で輝く新たな一步



「祖國」とイモの種植え

3月、ケアワーカーとして当院で1年の実務経験を重ねた 笹森比奈さんが、介護福祉士国家試験に見事合格しました。

笹森さんは周囲への配慮を忘れず、安全を守りながら思いやりの姿勢で患者さんに関わるところを心がけているとのこと。介護福祉士登録証を手にして「病院勤務は初めてでしたが、充実した研修内容と先輩たちの優しく丁寧な指導のおかげで安心して働くことができた」と振り返りました。今後は介護福祉士となりました。

【畠隊長】とイモの種植え

5月31日、当施設に隣接する塩谷小学校1・2年生8人と「はまなすガーデンそらしきど」でイモの種植えをしました。小学生に指導するのは「畠隊長」こと矢野達也介護士。当日は朝から雨模様でしたが午後からは回復し、畠の土は湿り気のある

小樽市立桜町中学校の1年生5人が、5月22日、職場訪問のため当院を訪れました。

はじめに、総務課職員が病院の役割や機能を説明。その後薬剤室、臨床工学室、リハビリテーション室、放射線室、臨床検査室を案内して回り、各部署



(済生記者 定淳志)

職員が仕事内容を解説しました。生徒たちは説明に大きくうなづき、食い入るように機械設備などを見入り、熱心にメモを取り、身を乗り出して写真を撮つたりしていました。

終了後、引率の教諭が素敵すてきな話を教えてくれました。教諭自身の子どもが中学生時代に当院を見学して医療に興味を持ちたこと。職員一同、将来の仲間になってくれるかもしれない中高生の見学受け入れに、今後も力を尽くしていく決意を新たにしました。

（済生記者　田中一弥）
「ざんに少しでも元気になつても
らいたくて演奏をしました」と
語りました。

は人工肛門作成も実施、縫合練習に苦戦している研修医も見られましたが、熱心に指導医の指導を受けていました。

しての専門性を高め、多職種で連携したケアを目指すとの目標を語りました。

ティッシュ配布を通して 患者さんとの距離を縮める

5月12日、看護の日のイベントを行いました。

今年は副師長・主任部会メンバー16人が中心となり、職員家族の子どもを対象に「さあ、看護の未来を見つけにいこう」をテーマにイラストや絵を募集。17作品が集まり外来フロアに展示しました。

コロナ禍の影響でここ数年入院・透析患者さんに限定していたティッシュ配布も、今年は広く行なうことができました。

外来患者さんは、入職してまもない新人看護師12人が玄関や外来フロアで直接配布。入院患者さんは病棟看護師が直筆メッセージ付きのティッシュを手渡しました。

「ありがとうございます」と言ってもらえてうれしかった」「患者さんとの距離を縮めるよい機会。今後も積極的に参加したい」など、看護師からもボジションを手渡しました。



〈新潟〉特養長和園

ベテラン利用者に教わる 三角ちまき作り

ティップな声が上りました。

（済生記者 松元靖寿）

ICLS講習会で チーム蘇生を学ぶ

日本救急医学会認定のICLS講習会「第2回 治生会加須病院こいのぼりICLSコース」を、6月2日、院内で実施しました。

ICLSは、突然の心停止に対する最初の10分間のチーム蘇生を習得するためのコース。除細動器を安全に使うためのコツ、四つの心電図波形の評価・判断、気管挿管を含めた気道管

臨床工学技士、放射線技師計12人が受講し、コースディレクタ

当日は臨床研修医や看護師、理学療法士、蘇生実習用人形を用いたシミュレーション実習を行ないます。

新潟県では、5~6月頃になると各家庭で笹団子や三角ちまきを作る風習がありましたが、作れる人が少なくなり家庭で作る機会は減っています。

新潟県では、5~6月頃になると各家庭で笹団子や三角ちまきを作る風習がありましたが、作れる人が少なくなり家庭で作る機会は減っています。

ちまき作りのベテラン利用者さんに縛り方を教えてもらい、皆さん和気あいあいとした雰囲気でちまきを作っていました。160個ほどできたちました。



〈愛媛〉小田特養緑風荘

ひとことをきっかけに 駄菓子屋テーマ

令和6年度の新緑祭を5月9日に開催し、入居者さん30人、デイサービスの利用者さん5人が参加しました。

ある入居者さんが何気ない会話の中で呟いた「駄菓子屋さんに行きたない」というひとことが参加しました。

駄菓子屋ではくじ引き、的当て、駄菓子釣りの三つのゲームを準備し、ゲームの結果でもらえる駄菓子の量が変わるように



ーは救急医学科の福島史人医師が務めました。心停止した傷病者の発見後、どのようにチーム蘇生を展開していくかをさまざまなもので実際の現場に即したICLSシミュレーション実習を繰り返しました。

（済生記者 蓬田絵里子）

当日の放送内容はテレビ局のYouTubeチャンネルでも公開されています。ぜひ、「済生会



熊本病院

救急医師に密着取材

6月3日、熊本のローカルテレビ局である熊本朝日放送（KAB）の夕方ニュース内で、当院救急科の平川怜医師に密着した約10分間の番組特集が放送されました。4月に医師の働き方改革が始まったことを受け、局側から「特に労働時間が長い科の一つとされている救急部門に密着したい」との依頼があり、実現したもののです。

取材が行なわれたのは5月某日。朝のカンファレンスに始まり、救急外来からICUまで、平川医師の行く所全てにカメラが密着しました。診療現場に終日カメラが入ることになりまたが、多くの現場スタッフの協力のおかげで大きなトラブルなく撮影を終えることができました。

当日の放送内容はテレビ局のYouTubeチャンネルでも公開されています。ぜひ、「済生会

令和6年度の新緑祭を5月9日に開催し、入居者さん30人、デイサービスの利用者さん5人が参加しました。

ある入居者さんが何気ない会話の中で呟いた「駄菓子屋さんに行きたない」というひとことが参加しました。





 SAISEIKAI NAGASAKI HOSPITAL

5月13～18日、利用者さん約50人を対象にニュースポーツの一つ、マグネット製のダーツ「マグダーツ」を行ないました。

滋賀 老健ケアポート栗東

卷之三

モチーフとなっています。 思いがこもった素晴らしい作品で、当院のマスクottキヤラクターにどうかとの話も出てい

クターの名前は「彩ちゃん」と「星ちゃん」、2人合わせて「さいせい」です。済生会が皆さん的人生や生活に彩りを添え、希望や輝きを与える存在になれたらしいと思いデザインしたそうです。

やすいよう、通常の減算方式ではなく、ボードに矢を3本投げた合計点を得点としました。



看護部が主体となつて毎年行なつて いるものですが、昨年度までは新型コロナ感染拡大防止のため、ポスターを掲示するのみにとどめていました。今年度はポスター掲示に加え、AED 教室や血圧・骨密度測定などを実施。さらに、医師による糖尿病に関する講演、認定看護師による人生会議（ACP）、感染対策・嚥下・認知症に関する講演など、多彩なコンテンツを楽しめるようにしました。

知りでもらいたい機会となればよし
た。 (済生記者 蓬田絵里子)

ました
その結果、来場者は約90人を
数え、多くの人に当院の看護を

(A)(P)・感染対策・嚥下・誤知症に関する講演など、多彩なコンテンツを楽しめるようにし

度測定などを実施。さらには、医師による糖尿病に関する講演、認定看護師による人生会議

看護部が主体となつて毎年行なつて いるのですが、昨年度までは新型コロナ感染拡大防止のため、ポスターを掲示するのみにとどめしていました。

出。
城谷さんが作成したキヤラ

に行ないました。

日南看護師の表彰式を5月15日

静岡県警察本部生活安全部・
生活安全企画課と連携し、6月
18日から当苑のある東豊田学区
で青色防犯パトロールを開始し
ました。

施設長・地域相談員の2人体制で、毎月2回ほど小学生の下校時間に合わせてパトロールを行なう予定です。

5年ぶりの互助会花見会 多職種交流の場に

互助会花見会 の場に

5年ぶりに職員が会する場となつたこともあり、他部署の職員と交流し親睦を深めるよい機

topics

地域の防犯に一役 清生会が青バト復活

〈静岡〉特養小鹿なでしこ苑

山口総合病院

に登壇し自己紹介。その後はビンゴ大会が催され、大いに盛り上がりました。

topics

設置。約100人が来場しました。
会場は人々の笑顔にあふれ、
中でもボランティアさんの協力
によるマスクコットへの香り付け
体験コーナーでは、アロマの香
りに包まれながら来場者と楽し
く対話することができました。
また、看護部職員による「看



問看護師の活動紹介や管理栄養士による栄養相談、皮膚排泄ケア認定看護師による相談窓口を



**認知症ケア専門士として
地域ケア会議で助言**
5月15日、大野有終会館で「令和6年度第1回大野市地域ケア会議」が開催され、介護支援専門員や訪問看護師、作業療法士（看護部 管理師長 井上優子）

（福井）特養聖和園

「護川柳」作品を掲示し、「看護師の笑顔が一番 特効薬」が大賞に輝きました。川柳を通じて看護師自身が日常を振り返り、看護の魅力を再確認する機会となりました。

（看護部 管理師長 井上優子）

など多職種20人が集まりました。会議は取り上げられた事例に対して、各分野の専門職がそれぞの視点で助言を行なう形式で進行。当園からは認知症対応型通所介護「わらびようデイサービスセンター」に勤務する筆者（認知症ケア専門士）が参加しました。

当日は、認知症状のある人を家族で介護する上での困難さや課題、今後の関わり方などについて、認知症ケアの視点から助言。さまざまな生きた事例に触れることができ、非常に有意義な会議となりました。

（済生記者 野尻 宗）

**豪雨と大地震を想定した
合同防災訓練**

6月9日、日田市合同防災訓練が行なわれました。当日は自衛隊や気象庁などの機関、大分県や日田市の公的機関をはじめ、日田市医師会や昭和学園高校など多くの機関が参加。当院からの参加も総勢126人となりました。

訓練は豪雨と震度6強の地震を想定した内容。院内に災害対



策本部立ち上げ、近隣医院の状況の把握、土砂災害による交通制限などを踏まえた他院への搬送手続き、トリアージポストの設置と受け入れ、BCPが正しく運用できるかの確認を目的として行なわれました。昭和学園の生徒が患者役として訓練に参加し、実践に近い状況をつくり出したことで、緊張感のある訓練ができました。

なお今回、飯塚嘉穂病院から関口直孝院長をはじめ、13人が見学に来ました。

（済生記者 冷川和永）



当センターがより一体となり、現在の医療を取り巻く難局を皆で力を合わせて乗り切っていこうと思える会になりました。

10月にもBBQ大会を開催予定です。

（総務課統括課長 谷口正憲）

事務職員初任者研修 自分の価値観を知ろう

2022年度からスタートした、新入職事務職員対象の「事務職員初任者研修」。全6回シリーズで、毎回設けられる先輩

職員の講話では、「新入職員に伝えたいこと」をテーマに各分野の先輩方がフリートークを行ないます。

5月31日の回には、女性初の埼玉県済生会常務理事に着任した小池要子さんが登場。

（済生記者 原 衣里奈）

看護川柳で看護の 魅力再確認

5月22日、看護フェアを開催しました。看護師による血圧や皮膚の水分量測定のほか、地域社会での看護の役割をより広く知つてもらうことを目的に、訪

を見认识することが狙いです。参加した職員は「自分自身を見つめるきっかけになりよかったです」などの感想を述べました。

（済生記者 原 衣里奈）



270人でBBQ大会

5月25日、中津医療福祉センターの職員を対象に、ホテル・ロッジ舞洲「森とリルのBBQ フィールド」でBBQ大会を行ないました。

現地まで観光バス7台を手配し、総勢275人の参加者がおいしい食事とお酒を楽しみながら部署の垣根を越えて交流を深めました。天候にも恵まれ、海沿いのロケーションと爽やかな風が吹く中、大いに盛り上がりました。

当センターがより一体となり、現在の医療を取り巻く難局を皆で力を合わせて乗り切っていこうと思える会になりました。

10月にもBBQ大会を開催予定です。

（埼玉）川口総合病院

〈大阪〉中津医療福祉センター

5月25日、中津医療福祉センターの職員を対象に、ホテル・ロッジ舞洲「森とリルのBBQ フィールド」でBBQ大会を行ないました。

現地まで観光バス7台を手配し、総勢275人の参加者がおいしい食事とお酒を楽しみながら部署の垣根を越えて交流を深めました。天候にも恵まれ、海沿いのロケーションと爽やかな風が吹く中、大いに盛り上がりました。

当センターがより一体となり、現在の医療を取り巻く難局を皆で力を合わせて乗り切っていこうと思える会になりました。

10月にもBBQ大会を開催予定です。

（大阪）中津病院



いのちの大切さを知る メディカルフェス初開催

〈神奈川〉横浜市南部病院

5月19日、
港南ふれあい
公園をメイ
ン会場とし
て「第1回港
南メディカル
フェスティバル」が開催さ
れました。

同イベント
は、地域の子
どもとその家
族に、いのち
の大切さを楽しみながら知つて
もらおうというもの。みらい在
宅クリニック港南の開田脩平医
師が発起人となり、近隣の医療・
介護・福祉事業所がそれぞれの
専門分野で体験参加型コンテン
ツを提供しました。

実行委員会副委員長を務めた
当院の豊田洋診療部長・救急診
療科主任部長が中心となって行
なったのは「心臓マッサージ・
AED体験」。救急車が到着す
るまでに何ができるかを、実演
を交えて熱くレクチャーしまし
た。

また、虫明寛行診療部長・外
科主任部長は外科医になりきつ
て手術体験ができるコーナーを
担当。どちらのブースも順番待
て

ちの行列ができる盛況ぶりでし
た。
（地域医療連携室 齋藤一篤）

京都済生会病院

4年ぶりの 看護の日イベント 患者さんと看護師が交流



5月13日に「看護の日」のイ
ベントを4年ぶりに開催し、50
人以上が来場しました。

認定看護師の講演会では、中
曾根朱美・認知症看護認定看護
師が「認知症と向き合う『あな
たへ』」、福永恵・皮膚・排泄ケ
ア特定認定看護師が「防ごう尿
もれ 快適生活」、土本久美子・
摂食・嚥下障害看護認定看護師
が「誤嚥を防ぐ お口の体操」
をテーマに講演。参加者は「家
族が認知症ではないかと不安に
思ってきた」「この運動をすれば
尿漏れもマシになるかも」など
の感想を述べました。

「患者さんから看護師へ。看護
師から患者さんへ」のメッセージ
をジ展示には感謝の言葉が集まり、
それによって職員が時間や仕事
の優先度・重要性を意識しながら、勤務終了後には少しでも早
く帰ろうという助け合いの組織
風土と、時間外勤務の減少につ
ながることを目指しています。



クリニカルバス大会 53人が熱心に聴講

5月21日、当院講堂でクリニ
カルバス大会を開きました。
コロナ禍を経て久しぶりの集
合形式での開催となつた今回は、



7月から当院の看護師のユニ
ホームが現在の白色から、日勤
者は紺色、夜勤者は水色、手術
室はボルドーに変更になりました。
ユニホームの生地は、織物か
らニットに変更。生地の強度を
上げながら、15%軽量化さ
れ2倍以上の通気性があり、快
適さと優れた着心地を実現して
います。

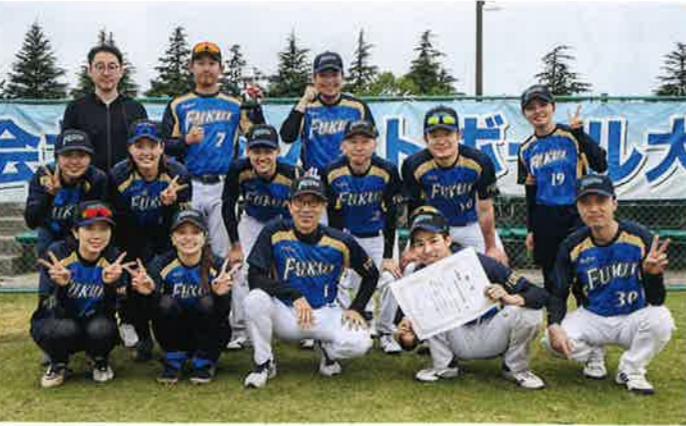
看護部ユニホームを リニューアル！

（栃木）宇都宮病院

ソフト大会2連覇ならず

5月12日、富山県岩瀬スポーツ

公園で第42回済生会北信越ブ
ロックソフトボール大会が開催
されました。強風が吹き荒れ
る中、大会連覇を目指す当院は



予選で3本のホームランを放ち、
投手陣も危なげないピッチング
で順調に勝ち上がりました。
決勝の富山病院戦では先取点
を許し、一時1点差まで詰め寄
るも、あと1本が出ず突き放さ
れ7対4で敗北。大会2連覇と
はなりませんでした。

試合後、監督を務めた田中一
弥さんは「選手たちは悪天候の
中よく頑張ってくれた。来年は
この悔しさをバネに優勝を目指
して頑張りたい」と話しました。
（総務・企画課 山村健太）

サルコベニア予防としての簡易
筋力チェックにも多くの患者さ
んが立ち寄りました。
（済生記者 白須優也）

北海道 小樽病院

topics

〈山口〉 豊浦病院

医療職に興味がある 地域の中学生が職場体験

6月13・14日の2日間、地域の中学2年生6人が職場体験に当院を訪れました。ナース服に着替えた生徒たちは、院内ツアーや看護ケア見学、学生同士のバイタルサイン測定、ベッドメイキング、手洗いチェック、高齢者疑似体験など盛りだくさんの内容を2日間にわたりました。



り体験。普段入ることのない手術室では、手術患者の体温低下を防止するための加温装置を体験しました。

誕生日を迎えた患者さんの病室では、皆で「ハッピーバースデー」を歌つてメッセージカードを渡す場面も。参加者は「患者さんが喜んでくれてうれしかった」「看護師になりたい気持ちが強くなつた」といった感想を述べました。

(済生記者 西田千鶴)

〈東京〉 向島病院

久しぶりのフル日程での 職員オリエン

4月1・2日、新入職員13人と前年度の経験者採用の職員5人に對し、職員オリエンテーションを実施しました。コロナ禍の間は研修内容を縮小し、オンラインでの講義に切り替えて実施していたので、2日間フル日程での集合研修は久しぶりです。

初日のはじめに塚田信廣院長

が辞令と訓示を行なった後、各職場の担当者が「済生会人とは」「医療安全」「コンプライアンス」「感染対策」などの指導をします。2日目の締めくくりには防

火設備点検」「避難訓練」「初期消火実習」の防災関連の研修を行ないました。

消防署の方々に直接指導して

いたくとも久しぶりで、心な

しか指導にも熱がこもっている

ようく感じられました。

(済生記者 加藤建志)



ラウンドで開催され、当院をはじめ8チームが出場しました。

すつきりしない天気の中行なわれた第一試合の対戦相手は新泉南病院。残念ながら3対9で敗北を喫しました。そこからの立ち直りはすばらしく、第二試合は茨木病院に5対2と快勝。



岡山済生会看護専門学校
ソーシャルインクルージョンを学ぶ
済生丸実習スタート

6月10日から48期生の3年生の済生丸の実習が始まりました。当校は2022年度から新たな教育課程で学修していく、48期生は1年次から継続的にソーシャルインクルージョンについて学んでいます。3年次の授業では、済生会のソーシャルインクルージョンの事業の一つである済生丸の活動への参加を通して、離島の暮らしと看護を学ぶことが目的です。島の特徴と

住民の暮らしや健康に関することを事前学習した上で課題を明確にし、学生70人を九つのグループに分け、6～7月の2カ月で岡山県の七つの島を巡ります。この実習を通して、地域で暮らす人の健康を支える看護職と多職種の役割の違いや、連携と協働についての理解も深める機会となるでしょう。

(副校長 河野恵子)



「かわいい！」が飛び交う パンフレット写真撮影

6月6・7日の2日間、看護学生向けパンフレットに掲載する写真的撮影が行なわれました。看護師たちの仕事風景、いきいきとした表情をプロのカメラ

大阪府済生会親善ソフト
健闘するも入賞ならず

第47回大阪府済生会親善ソフトボール大会が、5月12日に枚方市のパナソニックアリーナで

しかし当院の3位入賞はかなわず、富田林病院の優勝で幕を閉じました。結果はともあれ、選手も応援した人も、皆が楽しんだ一日となりました。

(済生記者 一階堂潤江)



(済生記者 鈴木香純)



マンが撮影。同行した小島昌人看護師長の熱血演技指導やナーシングアシスタントのヘアメイクも行なわれ、新ユニホームを着用した看護師たちの魅力を一段と引き出していました。

撮影現場は終始和やかな雰囲気で、「かわいい！」という声が飛び交う中で進行しました。立合つた看護師長らは「若手看護師たちは普段から写真を撮られ慣れているから、表情もいきいきしていてよい」と大絶賛。看護師たちの笑顔がつまつたパンフレットは、7月末に完成予定。完成後は採用活動や説明会などで活用します。

topics

〈山口〉下関総合病院

ソフトボール大会最下位 来年の雪辱を誓う

「山口県済生会親善ソフトボール大会」が5月25日、やまぐちリフレッシュパークで6年ぶりに開催され、当院を含む3病院が出場しました。



移転後初の出張市民講座

5月23日、市民プラザかぞ（加須市市民総合会館）で出張市民

いて1・2歳児は朝から大喜び。生地作りの様子をのぞきに行き、焼きたてのスポンジケーキの甘い香りに誘われながら、出来上がりを心待ちしていました。

そしておやつの時間。お友だちや保育士にお祝いをしてもらいながら4人はうれしそうに口ウソクを吹き消した後、皆でおいしいケーキを食べ、笑顔いっぱいのお誕生日会となりました。

（保育士 別府絵里）

落書きスペースで 「繋がる輪」

〈熊本〉なでしこ園

当園の今年の取り組みのテーマは「繋がる輪」です。中でも保護者同士の交流をもっと盛り上げていこうといろいろな企画を考えています。

その一つとして、6月3日に通りがかりの落書きスペースを設置しました。保護者が送迎



（事務員 岩下かすみ）

終了後のアンケートでは「健康管理に役立てていきます」などの感想がありました。

出張市民講座は今後も月に1回実施する予定です。

（済生記者 蓬田絵里子）

時に通るテラスに机を置いて紙とペンを用意し、一人で抱えがちな悩みや心配事をつぶやける場に。「うちではこうしています」というアドバイスや応援のメッセージを書いてもらっています」など

積極的にのぞき込んでくれる方もさらには書き込んでくれる方もちらほらと。皆さん乗り気で関わってくれています。



真剣な眼差しで体験 4年ぶりの看護フェス

5月12日、当院で4年ぶりに看護フェスティバルを開催し、看護に興味のある中・高生21人が参加しました。

10時から16時までのプログラムで、最初は看護師の仕事内容

学生の皆さん、普段できない体験に真剣に取り組んでいました。将来共に働く人があることを期待

看護技術体験では赤ちゃんの抱っこや沐浴、超音波エコー、患者さんの移動動作、BLS（一次救命処置）のほか、妊婦体験や手術室での手術支援ロボット「ダビンチ」の見学なども盛り込みました。

やその面白さ、看護師になるための進路についてなどの座学、続いて病院内の見学、そして最後に看護技術体験を行ないました。

看護技術体験では赤ちゃんの抱っこや沐浴、超音波エコー、患者さんの移動動作、BLS（一次救命処置）のほか、妊婦体験や手術室での手術支援ロボット「ダビンチ」の見学なども盛り込みました。やその面白さ、看護師になるための進路についてなどの座学、続いて病院内の見学、そして最後に看護技術体験を行ないました。

来年の中四国大会は、当院が開催を引き受けます。「今回の悔しさをバネに来年こそ雪辱を果たして優勝しよう」「運営をもう」と早くも意気込みを見せていました。

（副看護部長 首藤悦子）

おやつがケーキの日！ 〈愛媛〉松山乳児保育園

5月21日は「おやつがケーキ」の日。5月生まれの4人の園児の誕生日祝いに、みんなでケーキを食べました。

当園には給食室があり、栄養士を含む職員3人が毎日、食事（離乳食・幼児食）とおやつを作りしています。食事を楽しみにしている子どもたちは登園するとまず給食室へ行き、その日のメニューを教えてもらい、食材を見たり触れたりします。



しています。

（済生記者 荒木愛美）

5月21日は「おやつがケーキ」の日。5月生まれの4人の園児の誕生日祝いに、みんなでケーキを食べました。

当園には給食室があり、栄養士を含む職員3人が毎日、食事（離乳食・幼児食）とおやつを作りています。食事を楽しみにしている子どもたちは登園するとまず給食室へ行き、その日のメニューを教えてもらい、食材を見たり触れたりします。

この日はおやつがケーキと聞

士を含む職員3人が毎日、食事（離乳食・幼児食）とおやつを作りています。食事を楽しみにしている子どもたちは登園するとまず給食室へ行き、その日のメニューを教えてもらい、食材を見たり触れたりします。

この日はおやつがケーキと聞

topics

ウズベク自治共和国保健相らがん治療視察

5月22日、ウズベキスタンの一部であるカラカルパクスタン共和国の保健大臣と在日ウズベキスタン大使らが当院へ見学に訪れました。日本のがん診断技術調査のため、医療施設の見学を希望されていました。

（済生記者 荒木愛美）

全国済生会肝臓共同研究 グループ

令和6年度の活動を報告

令和6年度全国済生会肝臓共同研究グループ（SLSG）活動報告会を5月24日、オンラインで開催し、14人が参加しました。

当日は江川智久副院長、内田力副部長（事務部）、折登剛事務部長を中心となつて対応しました。まずは「東部がんセンター」でのがん治療に対する取り組みを説明。多職種のチーム医療や手術支援ロボット「ダビンチ」など先端医療についてさまざまな質問が寄せられ、ウズベキスタンの医療との違いを共有しました。

その後、CTやMRI、放射線治療機器「サイバーナイフ」や「ダビンチ」ハイ

執筆中の論文2編、進行中のグループ研究5題の進捗状況について報告が行なわれました。

また、事務局の〈大阪〉吹田病院・島俊英院長から、23の専門的活動グループの中、当グループの特設ページが本



れました。

河内医師はこの度、輸液ポンプ20台を当院に寄贈。これまでも長年にわたり、当院と地域ケアンセンターにエルゴメーターや床ずれ防止用ベッド等の医療機器の寄贈、多額の寄付を行なっています。寄贈された機器は日頃から多くの場面で活躍しています。

（済生記者 龜尾美子）



〈兵庫〉小規模特養なでしこ 神戸

介護サービス中心の 日常から 地域に飛び出す工夫を

5月5日、神戸市北区商店街で開催される大規模な地域イベント「ありの台マルシェ」に、利用者さん3人と行つてきました。

昔は毎日のように通つていたスーパーや商店街を歩いていると、疎遠になつていた知人と再会し、笑顔で懐かしそうに話す利用者さんの姿が印象的でした。介護保険の利用が始まると介



護サービス中心の日常となり、外出の機会は施設と自宅の行き来だけになりがちです。一緒に歩くことで、以前の居場所を思い出さきつかけになつたようでした。

（看護小規模多機能型居宅介護なでしこ神戸 計画作成担当者 藤内貞子）

長崎病院 「顔の見える連携」のために 地域医療意見交換会

6月11日、長崎市内のホテルで地域医療意見交換会を開催し、長崎市近郊の医療機関の医師を中心における対応について、総合内科の中島宗敏部長が「関節リウマチの診断と治療について」と人

第一部では田中賢治・消化器病センター長、内田信二郎・同副センター長が「消化器疾患における対応について」と、総合内科の中島宗敏部長が「関節リウマチの診断と治療について」と題して講演を行ないました。

第二部の意見交換会では、当院医師・スタッフ37人を含む85人が参加し、長崎医療圏の現状や患者さんの紹介などについて活発な意見交換が行なわれました。

全職員参加の防災訓練

（東京）中央病院

6月10日、全職員を対象に院内防災訓練を実施しました。今回、11階西病棟が出火元の火事を想定して行なわれました。災害対策委員会が初期消火や避難誘導などの実際の火災発生時での迅速・安全な避難行動を評価し、改善点を指摘すること



担当顧問が勇退されたという大雑報の記事を読み、前回済生記者になつたときに記事の集め方などいろいろと教えていただきしたことや、記者研修後に一緒にお酒を飲んで話した思い出がよみがえりました。

はたして今、済生記者に「山内チルドレン」は何人いるのかな? 済生会広報実務研究会メンバーの大半はそうだと思いますが(笑)。

山内顧問が作り上げてきた機関誌「済生」。これからも皆さんで盛り上げていきましょう!

(北海道・小樽老健はまな)

済生記者 伝法俊和

★現在の広報実務研究会メンバー、世代的にグランドチルドレンも増えていますね。

(本部広報課 河内淳史)

地域のお祭りに参加!

第19回「ふれ愛まつりだ、芝地区!」

が6月15日に開催され、(東京)中央病院が展開している「みんなプロジェクト」として出展しました。前日に本部で済生記者研修会が開催されることもあり、広報実務研究会の幹事仲間3人が応援に立ち寄つてくれました!

30℃超の暑い一日でしたが、祭り全体で約5100人が来場。無事にしばみつマドレーヌとハニーチー



ズスコーンを完売しました。

(東京・中央病院)

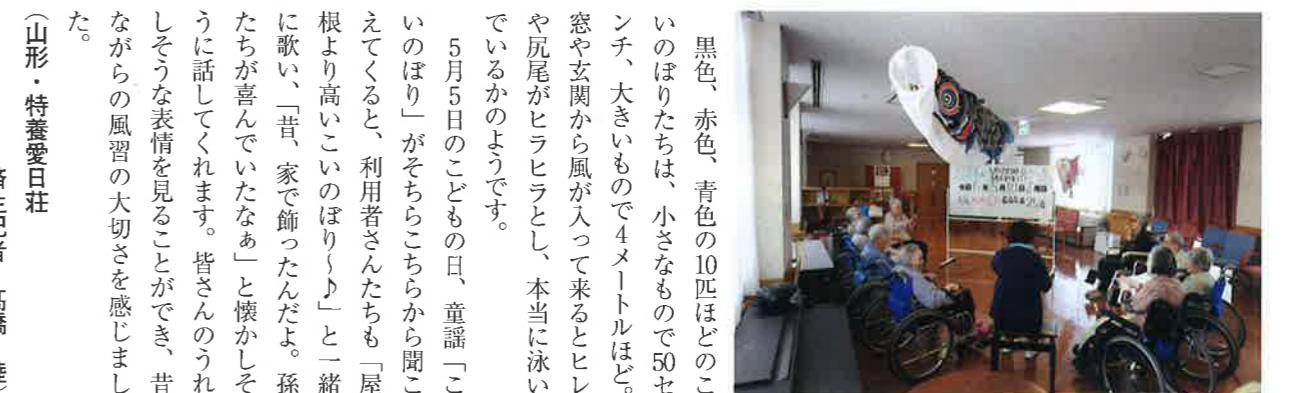
広報室 佐藤弘恵

★実は私もおじやまして、大盛況の中はちみつ入りのソーダで涼を取りました。ごちそうさまでした!

(メイカル・リーフ 坂本陽子)

天井を泳ぐこいのぼり

毎年5月初め、当施設の1~3階では天井を泳ぐこいのぼりを見ることができます。



(山形・特養愛日荘)

済生記者 高橋 瞳

★大人に成長しても子や孫のかわい

めているなら絶対見に行かねばと思

い、6月13日に初訪問しました。

三県境は全国に40カ所以上あります。そのほとんどが山頂や河川上にあります。加須市の三県境のように、気軽に歩いて行ける平地に存在

しているのは珍しいそうです。

以前は渡良瀬川の中に位置していましたが、明治から大正時代にかけての渡良瀬川の改修工事により河道が変わり、現在の位置に。全国でも珍しい三県境ということで、加須市の自慢の一つです。

(山口地域ケアセンター)

済生記者 楊 玉華

さんの困りごとも気軽に相談できる

ようになり、本当に助かっています」と尾中施設長。過疎地域で済生

会に求められる役割を日々考えながら、信頼される事業所を目指しています。

(折り紙作家 いまいみさ)

皆さん、三県境をご存じですか?

★いまいみさの折り紙制作ありがとうございます。仁保郵便局の元気パワーアップの壁面飾り素敵ですね♡

(折り紙作家 いまいみさ)

皆さん、三県境を存じですか?

★栃木県出身ながら未踏の地です。

三つの県で構成される県境のこと

で、栃木県・群馬県・埼玉県の三県境が加須市にあります。加須市に勤

（記者としては、まだまだなのです

が）。

おいしそうな写真を目指して
済生記者に任命されて早数年。最初は「仕事が増えるし、記事なんて書けないよ……」と思っていたら、しかし、毎年本部が主催する済生記者研修会ではいろいろなノウハウを学ぶことができ、すてきな出会いもあり、とても楽しくなつてきました（記者としては、まだまだなのです）。

2019年12月の研修会ではプロ

さ、大事さは変わらないという思いが伝わってきます。

(本部広報課 河内淳史)

折り紙で地域とつながる

特養／居宅介護サービス複合施設には苑（山口地域ケアセンターの関連施設）の尾中未来施設長は毎月、機関誌「済生」を地域の関係機関に配布しています。

配布先の一つ、仁保郵便局では折り紙の折り方を紹介する「てづくり

おもちゃ」の連載を楽しみにしてくださいました。郵便局が関わる利用者



「折り紙のことだけでなく、局員さんといろいろなお話をできるようになりました。郵便局が関わる利用者

おもちゃ」を作った折り紙作品がいくつも局内に飾られています。

「折り紙のことだけでなく、局員さんといろいろなお話をできるようになりました。郵便局が関わる利用者

おもちゃ」の連載を楽しみにしてくださいました。郵便局が関わる利用者

おもちゃ」を作った折り紙作品がいくつも局内に飾られています。

「折り紙のことだけでなく、局員さんといろいろなお話をできるようになりました。郵便局が関わる利用者

おもちゃ」を作った折り紙作品がいくつも局内に飾られています。

未来を紡ぐ、80年の絆。 地域の皆様と共に歩む 産科病棟の新たな一歩。

クラウドファンディング挑戦中

寄付募集期間 寄附金控除対象
2024年6月3日(月)10:00 ~ 2024年8月31日(土)23:00
【本件の寄付は、社会福祉法人への寄付と同様に税額控除証明書を発行できます。】

第一目標金額
2000万円
いたくご寄付の使い道
産科病棟のリニューアル

80年にわたり、私たちの病院は地域の多くの家族と共に歩んできました。母と子の健康を守る場所として、数えきれないほどの新しい命の誕生を見守ってきました。そんな中で、時代と共に妊婦さんや赤ちゃんにとって必要な環境や、必要なサポートが変化していることを日々感じています。そこで、私たちは産科病棟の改修を通じて、未来今後も変わらぬ大阪北部のお産を支え、小さな命を守り続けていこうと考えています。

特に近年は感染症によりお産も大きな影響を受けました。当院でも、豊能医療圏で COVID-19 陽性妊産婦の積極的な受け入れを行い、今後も新興感染症に備えた設備の必要性を強く感じております。この改修が、妊婦さんや赤ちゃん、そしてその家族にとってより安心できる場所となるよう努めてまいります。地域の皆様と力を合わせ、未来のお産を守り支え合いながら、これからも地域の一員として貢献していきたいと思います。

皆様の温かいご寄付をお願いいたします。

クラウドファンディングとは
インターネットを通して活動や夢を発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募る仕組み。

ご寄付・詳細は下記のサイトをご覗ください
<https://readyfor.jp/projects/suita-2024>

吹田病院 レディーフォー 検索



出世風で子どもの成長を願う

(メディカル・リーフ 坂本陽子)

5月5日のこどもの日に、内子町五十崎地区の「いかざき大凧合戦」がある行事で、たこ糸に「ががり」という刃物を仕込み、空中で互いに糸を切り合う日本で唯一の大凧合戦です。当日は120チームが参加し、2万人の観衆の前で激しい戦いが繰り広げられました。

大凧合戦は、子どもの名前を書いた「出世風」を舞い上げ、健やかな成長を願ったことがそもそもの始まり。現在も「初節句行事」として大凧合戦の同日に行なわれています。私も「子どものためにしてあげればよかつた……」と少し残念に思いました。

今年5月5日以降にお子さんが誕生したお父さん、お母さん！ 来年は内子町の出世風でお子さんの成長を祈願しませんか？

(愛媛・小田診療所)

済生記者 福岡博実
★そんな凧合戦があるなんて……なんて楽しそう！ 地元民じやなくても参加できるならぜひやりたい！
(編集部一同)

アンケートにご協力ください
機関誌「済生」をご覧いただきありがとうございます。この度、本誌に対する満足度やニーズを把握するため読者アンケートを実施します。二次元バーコードからご回答をよろしくお願ひします。皆さまからのご意見を参考にして「済生」を編集してまいります。

（本部広報課 杉山菜央）

を知った人はもう抜けられません。

り広げられました。

明治44年2月
11日、明治天皇

は、時の総理大臣桂太郎を召さ

れ

て「恵まれない人々のために施薬

救療による済生の道を広めるよう

に」との済生勅語に添えてお手元金

150万円を下賜された。桂総理は

この御下賜金を基金として全国の官

民から寄付金を募つて同年5月30日

恩賜済生会を創立した。

以来今日まで113年、社会経済

情勢の変化に伴い、存廃の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながら

も、本会は「施薬救療」という創立

精神を理念とし保健・医療・福祉

の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。

戦後、昭和26年に公的医療機関の

指定同27年に社会福祉法人の認可

を受け、現在、社会福祉法人

財團済生会となっている。

理事会長 炭谷茂

会長 潮谷義子

総裁 秋篠宮皇嗣殿下

本部 東京 支部 都道府県

病院 83 診療所 20 介護医療院 2 介護老人保健施設 28

老人福祉施設 119 児童福祉施設 25 障害者福祉施設 9

看護師養成施設 7 訪問看護ステーション 31 66 地域包括支援センター 5

その他 9

合計 405 (数字は令和5年度)

さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の58島の診療活動に携わっています。

職員数は全国で約6万6000人。

READYFOR

SAISEI | 2024 JULY 82

済 生 [令和6年7月号]
THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和6年7月10日発行
通巻第1141号(第100巻第7号)

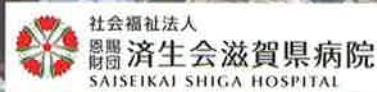
編集兼
发行人 炭谷 茂
発行所 社会福祉法人 恩賜済生会
〒108-0073
東京都港区三田1-4-28
三田国際ビルディング21階
TEL: 03-3454-3311(代)
FAX: 03-3454-5576
印刷所 株式会社白橋
東京都中央区八丁堀4-4-1
©社会福祉法人 恩賜済生会



命の最前線を支え、
地域を守り続ける。

目標金額

2,000万円 2024年6月11日(火)9時～9月9日(月)23時まで



10年間の献身が生んだ成果 次世代のドクターカーへの更新

※本プロジェクトはAll in方式のため、目標金額の達成の有無にかかわらず実行者は寄付金を受け取ります。

済生会滋賀県病院は、1996年4月に救命救急センターの指定を受けて以降、滋賀県湖南地域（草津市、栗東市、守山市、野洲市）の3次救命救急センターとして、救急集中治療科の医師を中心に、各診療科および各職種のスタッフが一丸となって救急医療に取り組んでいます。

2011年9月からは、救急医と看護師を病気や事故等の救急現場に派遣する「ドクターカー」の運用を開始しました。医師や看護師がドクターカーで現場に赴き、その場で治療を行うことができるため早期医療介入、迅速な根本治療へと繋げることができます。

現在は「救急車型」と「ラビッドカー型」の2台を保有していますが、「救急車型」のドクターカーは、購入から約10年が経過しようとしており、走行距離も10万kmに近づいています。緊急走行は通常の走行とは異なり車両に負担がかかるため、毎日の点検に加え過去には大きな修理も行ってきましたが、現場の最前線で命を守る活動を続けるためにも買い替えが急がれる状況です。

しかし、私たちの力だけではこの大きな課題を乗り越えることは難しい状況にあります。そこでこの度、クラウドファンディングに挑戦することにいたしました。

これからも有事の際に迅速に医療支援を提供し続けるため、ドクターカーの運用や災害時の支援活動を決して止めてはなりません。皆様からの寄付が、私たちの地域を守り、多くの命を救う力となります。
どうかあたたかいご寄付をよろしくお願ひいたします。

みなさまの
温かいご支援お願いいたします

※各コース金額にシステム手数料（220円/税込）を追加した金額が合計の寄付金額となります。複数のコースを選択する場合も、お支払いごとに220円/税込となります。

お問い合わせ

済生会滋賀県病院 総務課 (月～金 9:00～17:00)
EMAIL: ssh@saiseikai-shiga.jp TEL(077)552-1221^(代)



READYFOR

<https://readyfor.jp/projects/saiseikai-shiga>

済生会滋賀県病院 レディーフォー



上記QRコードから
クラウドファンディングへ

ISSN 1343-571X



グリーン・プリンティング
この印刷製品は、環境に配慮した
資材と工場で製造されています。